

資料編

資料 1	やまがた緑環境税制度の評価・検証の経過	1
資料 2	山形県の森林・林業・木材産業の概要	2
資料 3	荒廃森林緊急整備事業のモニタリング調査	5
資料 4	やまがた緑環境税に関するアンケート結果	8

資料 1 やまがた緑環境税制度の評価・検証の経過

平成27年 6月 4日	第 1 回やまがた緑県民会議	(評価・検証体制、スケジュールの協議)
平成27年 6月17日	第 1 回やまがた緑環境税評価・検証プロジェクトチーム会議	(評価・検証体制、スケジュールの確認)
平成27年 5月～12月	やまがた緑環境税の評価・検証に関するアンケート調査の実施	(県政アンケート、個人・法人アンケート、森林所有者アンケートなど)
平成27年 7月～ 8月	意見交換会 (森林組合)	
平成27年11月18日 ～26日	意見交換会 (県民、市町村)	
平成27年 9月28日	第 2 回やまがた緑環境税評価・検証プロジェクトチーム会議	(課題の整理及び検討の方向性について検討)
平成27年10月 7日	第 2 回やまがた緑県民会議	(課題の整理及び検討の方向性について協議)
平成28年 1月26日	第 3 回やまがた緑環境税評価・検証プロジェクトチーム会議	(成果及び現状の把握、課題の整理に関する検討)
平成28年 2月18日	第 3 回やまがた緑県民会議	(県民の意識調査及び税活用事業の実績に基づく今後の方向性に関する協議)
平成28年 3月17日	第 4 回やまがた緑環境税評価・検証プロジェクトチーム会議	(税活用事業の成果と課題及び今後のあり方に関する取りまとめ)
平成28年 3月22日	第 4 回やまがた緑県民会議	(税活用事業の成果と課題及び今後のあり方に関する協議)

平成28年 5月23日	第 5 回やまがた緑環境税評価・検証プロジェクトチーム会議	(評価・検証 (中間とりまとめ) (案) の作成)
平成28年 6月 2日	第 1 回やまがた緑県民会議	(評価・検証 (中間とりまとめ) (案) に関する協議)
平成28年 6月17日	山形県議会 6月定例会厚生環境・農林水産常任委員会	『やまがた緑環境税の評価・検証 (中間とりまとめ)』を報告
平成28年 7月19日	市町村担当課長説明会	
平成28年 7月23日 ～24日	県民説明会 (県内 4 地区)	
平成28年 8月 5日	第 6 回やまがた緑環境税評価・検証プロジェクトチーム会議	(評価・検証 (案) の作成)
平成28年 8月18日	第 2 回やまがた緑県民会議	(評価・検証 (案) に関する協議)
平成28年 9月 1日	第 7 回やまがた緑環境税評価・検証プロジェクトチーム会議	(評価・検証 (最終案) の作成)
平成28年 9月 7日	第 3 回やまがた緑県民会議	(評価・検証 (最終案) に関する協議)

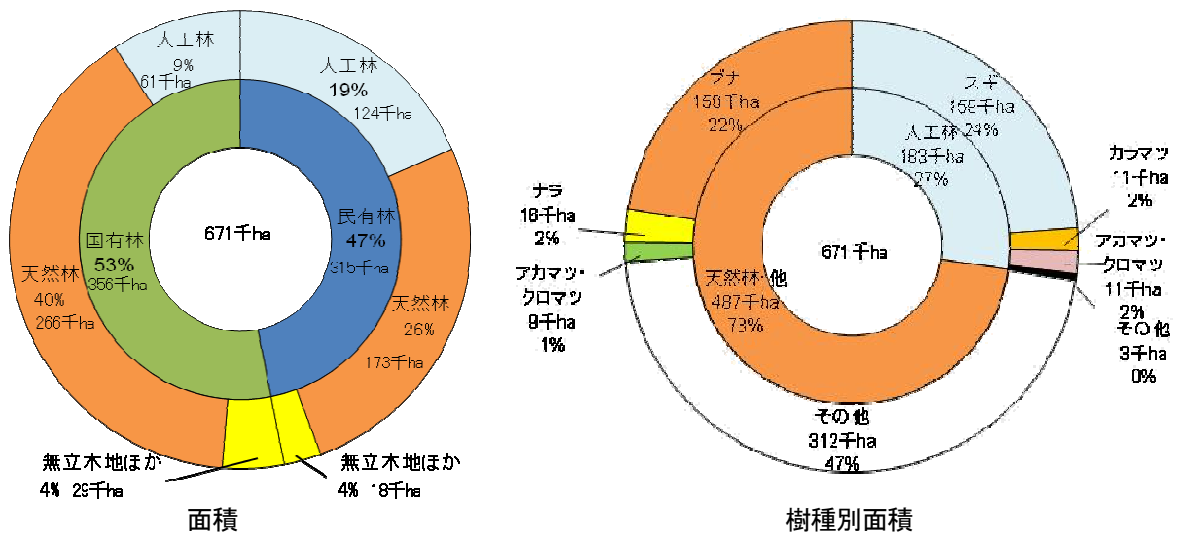
資料2 山形県の森林・林業・木材産業の概要

1 山形県の森林・林業・木材産業の概要

(1) 山形県の森林面積・蓄積

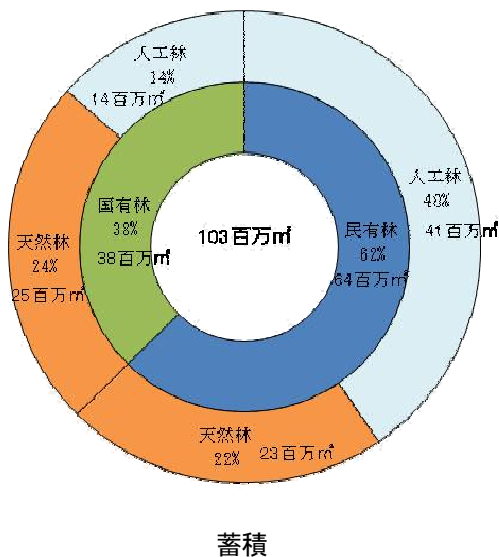
(面積)

- 山形県の林野面積は約67万ha(全国第8位)で、県土面積の7割を占めています。
- 全体の47%が民有林、53%が国有林となっています。
- 人工林と天然林の構成(面積比)は、天然林が73%と全国平均(41%)を上回っています。
- 森林の概ね3割ずつを「スギ人工林」、「里山のナラ林等」、「奥山のブナ林」が占めており、特に天然ブナ林は約15万haで日本一の面積を誇っています。



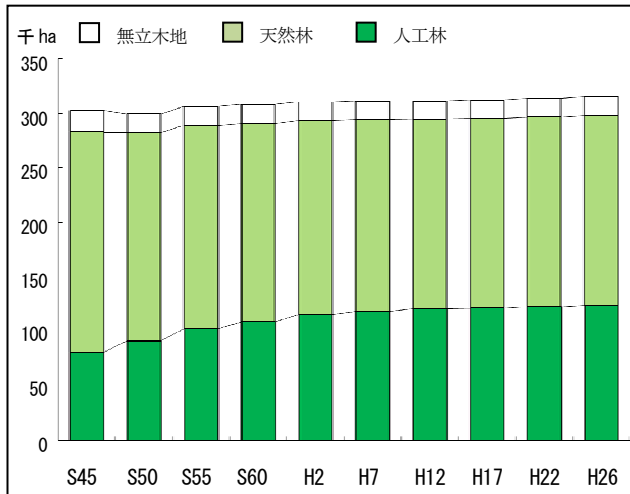
(蓄積)

- 民有林の蓄積は6,409万m³と全体の62%を占めています。
- 人工林・天然林別では、それぞれ同比率となっています。

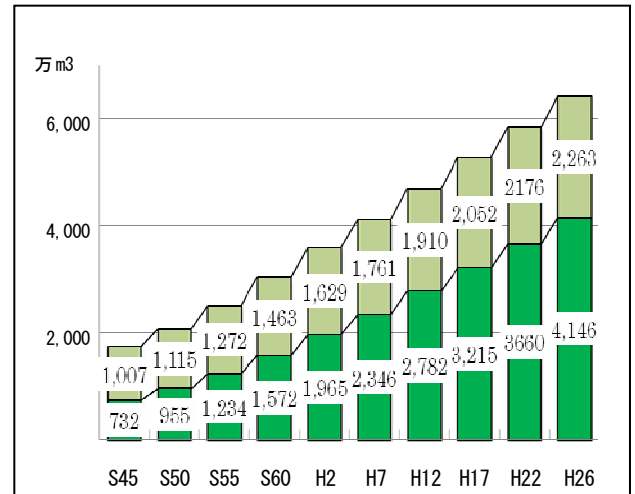


(2) 山形県の民有林の面積・蓄積の推移

- 現在の民有林の森林面積は、約 32 万 ha となっており、昭和 45 年からはほぼ一定で推移しています。天然林、人工林別の面積割合は、44 年前と比較すると、天然林面積が 17 万 ha で 12% 減、人工林面積が 12 万 ha で 12% 増となっています。
- 民有林の森林蓄積量は、年平均約 100 万 m³ ずつ増加しており、現在の蓄積総量は昭和 45 年からの 44 年間で 3.7 倍になっています。天然林、人工林別の蓄積は、44 年前と比較すると、天然林蓄積が 2,263 万 m³ で 2.2 倍、人工林蓄積が 4,146 万 m³ で 5.6 倍に増加しています。



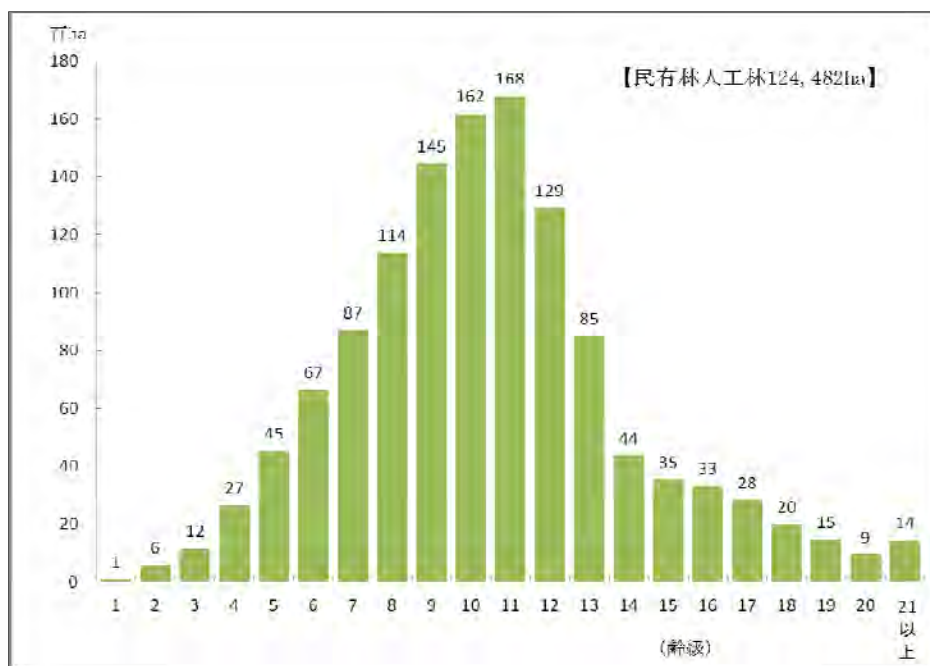
民有林人工林資源推移 (面積)



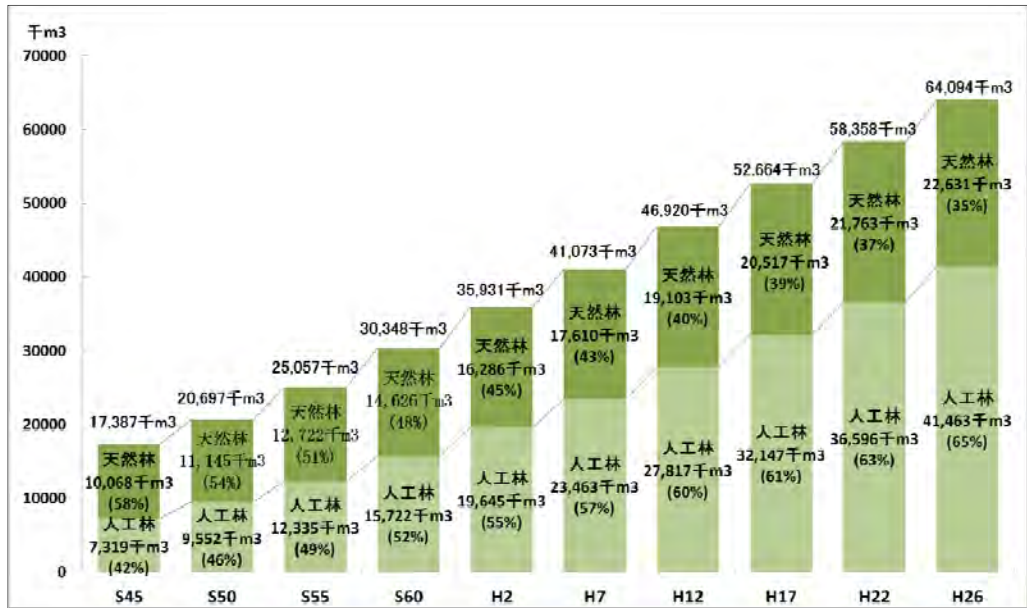
民有林人工林資源推移 (蓄積)

(3) 山形県の齢級別の人工林資源

- 人工林面積の構成を 5 年きざみの齢級単位にみると、11 齢級 (51~55 年生) 前後の面積が最も多くなっています。また、間伐を必要とする 4 齢級~10 齢級 (16~50 年生) の面積は 6 万 5 千 ha で、人工林の 52% を占めています。
- 森林の蓄積は、13 齢級以上 (61 年生~) の標準伐期齢を超える森林の蓄積量は 1,357 万 m³ で、総蓄積量の 32% を占めています。



民有林人工林の齢級別面積

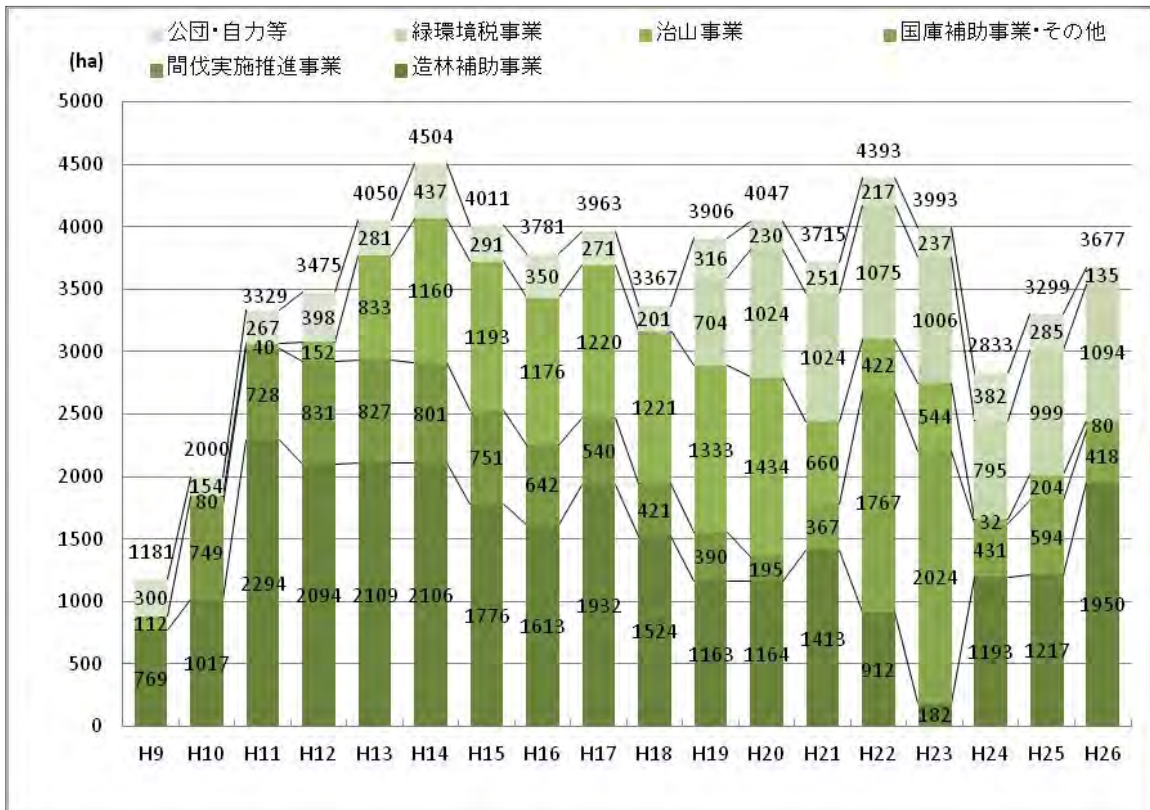


民有林人工林の齢級別蓄積

(4) 民有林間伐実施面積の推移

(民有林における間伐の実施状況)

- ・ 県では、平成 25 年に「第 4 期山形県間伐推進計画」を策定し、民有林における計画的な間伐を実施するとともに間伐材の利用を推進しています。
- ・ 同推進計画では、平成 25 年度から平成 29 年度を計画期間とし、年平均 3,800ha、5 年間の合計で 19,000 ha の間伐を計画しています。
- ・ 平成 16～26 年の 10 年間で約 40 千 ha (年平均：約 4,000ha) の間伐を実施し、間伐材利用量は約 426 千 m³ (年平均：約 43 千 m³) となっています。



資料：「山形県林業統計」「山形県の森林・林業・木材産業の概要」

資料3 荒廃森林緊急整備事業のモニタリング調査

(目的)

荒廃森林緊急整備事業の効果を分析・検証するため、モニタリング調査を実施

(調査方法)

平成19～21年度の3年間に整備を行った森林と、対照区として整備を行わない森林との比較調査を実施

この調査は、整備前及び整備後2年目から3年ごとに実施

モニタリング調査のスケジュール

年度	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	...
荒廃森林整備森林調査 ○:設定・調査(整備前) ●:再調査(整備後)	○ 24		● 24			● 24			● 25		
		○ 24		● 23			● 23			● 23	
			○ 24		● 24			● 24			
対照森林調査 ○:設定・調査 ●:再調査	○ 41		● 13			● 6			● 5		
				● 14			● 14			● 14	
					● 16			● 15			

(調査の内容)

植生調査等（1箇所当たり）

- ① 毎木調査（大プロット20m×20m）
 - ・ 直径4cm以上の個体の樹種、樹高、直径を調査
 - ・ 4つの階層に区分し、階層毎の植被率を調査
- ② 低木類の調査（中プロット10m×10m×2）
 - ・ 直径4cm未満、樹高1.5m以上の個体の樹種、樹高、直径を調査
- ③ 稚樹調査（小プロット1m×1m×18）
 - ・ 樹高1.5m未満の木本の稚樹の樹種・樹高を調査
- ④ 土壌調査（1断面）
 - ・ 土壌pHの測定等

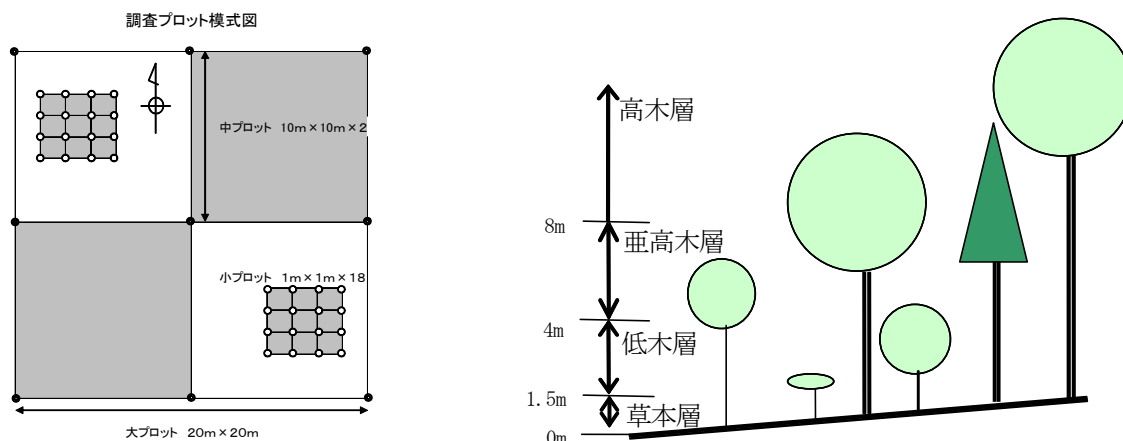





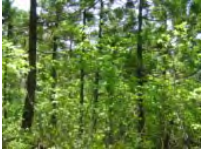

図 プロットの設定イメージと植生調査の階層区分

「森林環境緊急保全対策事業」における森林整備指針及び評価指標

1 針広混交林化施策


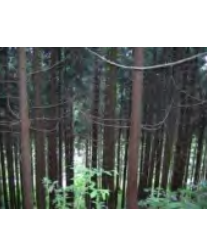
- (1) 目標林型：針葉樹と広葉樹が単木またはパッチを単位とするモザイク状態で混交し生育する森林
- (2) 施業対象林分：造林木の成長が不良な林分であつ形状比が高く気象害等の諸被害の発生が危惧される林分、または地理的条件が極めて悪い林分

林型区分	例	想定される整備手法（作業種）	調査項目、評価指標等		備考
			調査項目、調査方法	評価指標	
タイプA-1 【スギ過密林分】 ・スギの形状比：概ね90以上 ・草本層、低木層の植被率：概ね10%以下 ・スギ林分＝閉鎖後		○スギの抜き切り（受光伐） ・抜き切り率：本数率で40%を標準とし、現地状況に応じて±10%の範囲で調整する ○伐採木の集積 ○枯れ枝落し（抜き切り木以外を対象とする） ◆伐採率を標準より高く設定する場合は、林分形状比を低く抑える選木を行う ◆次のような立地環境では気象害の発生を極力避けるため抜き切り率を上記以下に抑えることも検討 ・多雪地帯（100cm≦最深積雪深<250cm）及び豪雪地帯（250cm≦最深積雪深<400cm） ・少雪地帯（最深積雪深<100cm）でも過去に周辺の林分で冠雪害が発生している地域 ・風害の発生しやすい林分（林業技術ハンドブックP1081～P1082参照）	○調査項目 ・広葉樹、草本類の樹種（種類）、密度、樹高、直径、被度 ・スギの樹高、直径、密度 ・高木性広葉樹の高木層の形成状況 【土壌環境】 ○調査手法 ・標準地（定点）における調査 【テスターによる直接測定】 【土壌分析、サンプリング】 ○調査時期 ・整備前 ・整備後2年目 ・以降2年おきの調査	○整備後3年程度～ ・下層植生（広葉樹含む）の侵入状況 【土壌の理化学性（pH、EC、塩基量等）】 ○整備後5年程度～ ・高木性広葉樹の侵入・生育状況 ・スギ形状比 【土壌の理化学性（pH、EC、塩基量等）】 ○整備後20年程度～ ・高木性広葉樹の生育状況 ・混交林化の誘導状況	○当該林分の周辺に高木性樹種からなる広葉樹林が存在しない場合（種子の供給源がない）は、当面、先駆樹種、草本類の侵入を期待する ○急傾斜地においては伐採木の滑落等による被害や表土の流出を防ぐため林内に集積・安定（杭による固定含む）させる ○現存する高木性広葉樹は伐採しないよう留意する pH：土壌酸度 EC：電気伝導度
タイプA-2 【草本類侵入林分】 ・樹高 スギ>（高木性）広葉樹 ・高木性広葉樹の侵入ほとんどないか少ない =低木性広葉樹及び草本類が優占 ・スギ立木密度>収穫予想表該当本数 ・スギ林分＝閉鎖後		○スギの抜き切り（照度に影響を与えている場合） ○雪害木の除去（主にスギ） 【高木性広葉樹が高木性以外の広葉樹と競合しているかまたは被圧されている場合】 ○高木性広葉樹の刈り出し ・高木性広葉樹の周辺の高木性以外の広葉樹の刈払い ・ササ類の刈払い 【高木性広葉樹が他の広葉樹より優占しはじめている場合】 ○高木性広葉樹の本数調整伐	○調査項目 ・高木性広葉樹の樹種、密度、樹高、直径、被度 ・高木性広葉樹の高木層の形成状況 ・スギの樹高、直径、密度 【土壌環境】 ○調査手法 ・標準地（定点）における調査 【テスターによる直接測定】 【土壌分析、サンプリング】 ○調査時期 ・整備前 ・整備後2年目 ・以降2年おきの調査	○整備後3年程度～ ・高木性広葉樹の生育状況 【土壌の理化学性（pH、EC、塩基量等）】 ○整備後5年程度～ ・高木性広葉樹の生育状況 ・スギ形状比 ・階層別植被率 【土壌の理化学性（pH、EC、塩基量等）】 ○整備後10年程度～ ・高木性広葉樹の生育状況 ・階層別植被率 ・混交林化の誘導状況	○主な気象害 ・冠雪被害林分 ・潮風被害林分（庄内）
タイプA-3 【高木性広葉樹侵入林分】 ・樹高 スギ>（高木性）広葉樹 ・高木性広葉樹は散在している *タイプA-2より出現率高い ・スギ立木密度>収穫予想表該当本数 ・スギ林分＝閉鎖後またはほぼ閉鎖		○スギの抜き切り（照度に影響を与えている場合） ○雪害木の除去（主にスギ） 【高木性広葉樹が高木性以外の広葉樹と競合しているかまたは被圧されている場合】 ○高木性広葉樹の刈り出し ・高木性広葉樹の周辺の高木性以外の広葉樹の刈払い ・ササ類の刈払い 【高木性広葉樹が他の広葉樹より優占しはじめている場合】 ○高木性広葉樹の本数調整伐	○調査項目 ・高木性広葉樹の樹種、密度、樹高、直径、被度 ・高木性広葉樹の高木層の形成状況 ・スギの樹高、直径、密度 【土壌環境】 ○調査手法 ・標準地（定点）における調査 【テスターによる直接測定】 【土壌分析、サンプリング】 ○調査時期 ・整備前 ・整備後2年目 ・以降2年おきの調査	○整備後3年程度～ ・高木性広葉樹の生育状況 【土壌の理化学性（pH、EC、塩基量等）】 ○整備後5年程度～ ・高木性広葉樹の生育状況 ・スギ形状比 ・階層別植被率 【土壌の理化学性（pH、EC、塩基量等）】 ○整備後10年程度～ ・高木性広葉樹の生育状況 ・階層別植被率 ・混交林化の誘導状況	
タイプB 【気象害等を受けた林分】 ・樹高 スギ>（高木性）広葉樹 ・高木性広葉樹の侵入ほとんどないか少ない =低木性広葉樹及び草本類が優占 ・スギ立木密度>収穫予想表該当本数 ・被害により閉鎖は破れている		○スギの抜き切り（照度に影響を与えている場合） ○雪害木の除去（主にスギ） 【高木性広葉樹が高木性以外の広葉樹と競合しているかまたは被圧されている場合】 ○高木性広葉樹の刈り出し ・高木性広葉樹の周辺の高木性以外の広葉樹の刈払い ・ササ類の刈払い 【高木性広葉樹が他の広葉樹より優占しはじめている場合】 ○高木性広葉樹の本数調整伐	○調査項目 ・高木性広葉樹の樹種、密度、樹高、直径、被度 ・高木性広葉樹の高木層の形成状況 ・スギの樹高、直径、密度 【土壌環境】 ○調査手法 ・標準地（定点）における調査 【テスターによる直接測定】 【土壌分析、サンプリング】 ○調査時期 ・整備前 ・整備後2年目 ・以降2年おきの調査	○整備後3年程度～ ・高木性広葉樹の生育状況 【土壌の理化学性（pH、EC、塩基量等）】 ○整備後5年程度～ ・高木性広葉樹の生育状況 ・スギ形状比 ・階層別植被率 【土壌の理化学性（pH、EC、塩基量等）】 ○整備後10年程度～ ・高木性広葉樹の生育状況 ・階層別植被率 ・混交林化の誘導状況	○主な気象害 ・冠雪被害林分 ・潮風被害林分（庄内）

林型区分	例	想定される整備手法（作業種）	調査項目、評価指標等		備考
			調査項目、調査方法	評価指標	
タイプC 【スギ生育不良林分】 ・樹高 スギ>（高木性）広葉樹 *チマキザサ侵入している場合もあり ・スギ立木密度>収穫予想表該当本数 ・スギ林分＝閉鎖前または不成熟造林地	 	○スギの抜き切り（照度に影響を与えている場合） ○雪害木の除去（主にスギ） 【高木性広葉樹が高木性以外の広葉樹と競合しているかまたは被圧されている場合】 ○高木性広葉樹の刈り出し ・高木性広葉樹の周辺の高木性以外の広葉樹の刈払い ・ササ類の刈払い 【高木性広葉樹が他の広葉樹より優占しはじめている場合】 ○高木性広葉樹の本数調整伐	○調査項目 ・高木性広葉樹の樹種、密度、樹高、直径、被度 ・高木性広葉樹の高木層の形成状況 ・スギの樹高、直径、密度 【土壌環境】 ○調査手法 ・標準地（定点）における調査 【テスターによる直接測定】 【土壌分析、サンプリング】 ○調査時期 ・整備前 ・整備後2年目 ・以降2年おきの調査	○整備後3年程度～ ・高木性広葉樹の生育状況 【土壌の理化学性（pH、EC、塩基量等）】 ○整備後5年程度～ ・高木性広葉樹の生育状況 ・スギ形状比 ・階層別植被率 【土壌の理化学性（pH、EC、塩基量等）】 ○整備後10年程度～ ・高木性広葉樹の生育状況 ・階層別植被率 ・混交林化の誘導状況	

2 長伐期択伐林誘導施策（一元管理）


- (1) 目標林型：長伐期択伐林施業が可能な形質を持つ立木を含む林分で冠雪害に対して安全な形状比を有するとともに林床には下層植生が生育している森林
- (2) 施業対象林分：立地環境においてはスギの生育に適しているものの保育施業が適期に行われなかったため林地荒廃が危惧される林分

林型区分	例	想定される整備方法（作業種）	評価指標		備考
			調査項目、調査方法	評価指標	
【スギ過密林分】 ・スギ立木密度>収穫予想表該当本数	 	○スギの間伐 間伐率：林冠を壊さないことを原則とし、山形県スギ林分収穫予想表における当該密度を目標とする ◆次のような立地環境では気象害の発生を極力避けるため抜き切り率を抑えることも検討する ・多雪地帯（100cm≦最深積雪深<250cm）及び豪雪地帯（250cm≦最深積雪深<400cm） ・少雪地帯（最深積雪深<100cm）でも過去に周辺の林分で冠雪害が発生している地域 ・風害の発生しやすい林分（林業技術ハンドブックP1081～P1082参照） ◆列状間伐を導入する場合、伐採列と残存列の設定にあたっては、以下留意する ・常風の方向や積雪等の気象条件 ・将来の搬出路としての利用 ○病虫害被害拡大防止施業 ・枯れ枝落し（間伐木以外を対象とする） ・つるきり など	○調査項目 ・広葉樹、草本類の樹種（種類）、密度、樹高、直径、被度 ・スギの樹高、直径、密度 【土壌環境】 ○調査手法 ・標準地（定点）における調査 【テスターによる直接測定】 【土壌分析、サンプリング】 ○調査時期 ・整備前 ・整備後2年目 ・以降2年おきの調査	○整備後3年程度～ ・下層植生（広葉樹含む）の侵入状況 【土壌の理化学性（pH、EC、塩基量等）】 ○整備後5年程度～ ・スギ形状比 ・下層植生（広葉樹含む）の生育状況 【土壌の理化学性（pH、EC、塩基量等）】 ○整備後10年程度～ ・長伐期択伐林への誘導状況（間伐の実施状況または計画の有無等）	

3 里山林整備

- (1) 目標林型：階層構造が発達し、高木層は高木性広葉樹や針葉樹（クロマツ等）が優占している林分でかつ更新に必要な高木性広葉樹が存在する森林
- (2) 施業対象林分：病虫害等により荒廃が進み森林の機能が低下した林分や人為的な補助作業なしでは更新が危惧される林分

林型区分	例	想定される整備手法（作業種）	調査項目、評価指標等		備考
			調査項目、調査方法	評価指標	
タイプA-1 【病虫害被害林分】 ・マツ材線虫病やナラ類集団枯損被害等により上層を形成していたアカマツやクロマツ、ナラ類などが枯損・枯死した林分 ・枯損木が立木のまま残っている		○枯損木（枯死木）の処理 伐倒・玉切り・集積など ○媒介する昆虫が羽化脱出する前の被害木が単木にある場合は薬剤処理による駆除も可（ただし枯損木処理の付随作業として実施） ○高木性広葉樹の刈出し 被圧している低木性樹木を中心に刈払い ○高木性広葉樹の植栽 （*自然力では回復できない区域でのみ実施） ・補助工として簡易掘工等の施工も可	○調査項目 ・広葉樹の樹種、密度、樹高、直径、被度 ・植栽木の樹高、直径、被度消失の有無 ・高木性種幼樹の樹種、密度 ○調査手法 ・標準地（定点）における調査 ○調査時期 ・整備前 ・整備後2年目 ・以降2年おきの調査	○整備後3年程度～ ・高木性広葉樹の生育状況 ・植栽木の生育状況 ○整備後10年程度～ ・高木性広葉樹の生育状況 ・植栽木の生育状況 ・階層別植栽率 ○整備後20年程度～ ・階層別植栽率 ・高木性広葉樹の種幼樹の出現状況	○伐採した枯損木については二次被害が発生しないよう処理する
タイプA-2 【病虫害被害により高木層が消失した林分：海岸部】 ・マツ材線虫病により上層を形成していたクロマツが枯損・消失した林分 ・風背側には高木性広葉樹が生育している		○抵抗性クロマツ等の植栽 ・補助工として簡易掘工等の施工も可 ・風背側に高木性広葉樹が生育している場合は、ギャップ（人為的に形成するもの含む）に植栽してできるだけ風による植栽木への影響を弱める手法をとる	○調査項目 ・植栽木の樹高、直径、被度消失の有無 ・植栽木以外の高木性広葉樹の樹種、密度、樹高、直径、被度 ・高木性種幼樹の樹種、密度 ○調査手法 ・標準地（定点）における調査 ○調査時期 ・整備前 ・整備後2年目 ・以降2年おきの調査	○整備後3年程度～ ・植栽木の生育状況 ・植栽木以外の高木性広葉樹の侵入状況 ○整備後5年程度～ ・植栽木の生育状況 ・植栽木以外の高木性広葉樹の侵入・生育状況 ○整備後10年程度～ ・植栽木を含めた高木性広葉樹の生育状況 ・階層別植栽率	
タイプB 【海岸クロマツ林分】*庄内地域 ・ニセアカシアが侵入している林分 ・密度が高く被圧されているクロマツが散在する ・ツル類が巻きついている個体が多い		○ニセアカシアの伐採、薬剤処理 ○被圧されているクロマツの抜き切り ○伐倒木の処理（ニマツ材線虫病の予防のための林外搬出など） ○つる切り ○被害木の薬剤等による処理 ○クロマツ（抵抗性）の植栽	○調査項目 ・ニセアカシアの本数、樹高、被度 ・ニセアカシア以外の広葉樹の樹種、密度、樹高、直径、被度 ・クロマツの密度、樹高、直径 ○調査手法 ・標準地（定点）における調査 ○調査時期 ・整備前 ・整備後2年目 ・以降2年おきの調査	○整備後3年程度～ ・ニセアカシアの侵入状況 ・ニセアカシア以外の広葉樹の侵入状況 ○整備後5年程度～ ・ニセアカシアの侵入状況 ・ニセアカシア以外の広葉樹の侵入・生育状況 ・クロマツの生育状況	

林型区分	例	想定される整備方法（作業種）	評価指標		備考
			調査項目、調査方法	評価指標	
タイプC 【上層過密林分】 ・林内には倒木や枯死木（株立ちの中の枯損した幹を含む）が発生している ・更新に必要な高木性広葉樹の種幼樹が非常に少ない ・萌芽更新に必要な高木性広葉樹の萌芽が非常に少ない ・下層植生が非常に少なく林地崩壊や土砂流出が危惧される		○抜切り（受光伐） 伐倒・玉切り、集積など ○枯損木の処理 伐倒・玉切り、集積など ○高木性広葉樹の刈り出し 被圧している低木性樹種を中心に刈り払い ○高木性広葉樹の植栽 （*自然力では回復できない区域でのみ実施） ・補助工として簡易掘工等の施工も可 ○つる切り	○調査項目 ・高木性広葉樹種幼樹の樹種、密度、樹高、直径 ・広葉樹の樹種、密度、樹高、直径、被度 ・植栽木の樹高、直径、被度、消失の有無 ○調査手法 ・標準地（定点）における調査 ○調査時期 ・整備前 ・整備後2年目 ・以降2年おきの調査	○整備後3年程度～ ・高木性広葉樹の樹種幼樹の出現・生育状況 ・高木性広葉樹（亜高木層・低木層）の生育状況 ・植栽木の生育状況 ○整備後5年程度～ ・高木性広葉樹の樹種幼樹の出現・生育状況 ・高木性広葉樹（亜高木層・低木層）の生育状況 ・植栽木の生育状況 ・階層別植栽率	

資料4 やまがた緑環境税に関するアンケート結果

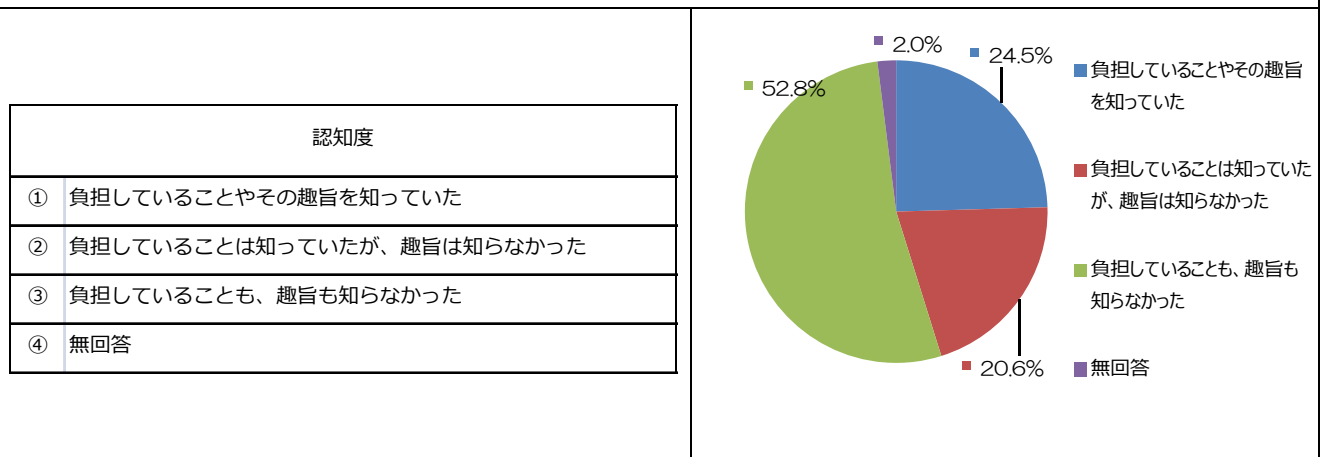
◆調査対象：県政アンケート

<調査の概要>

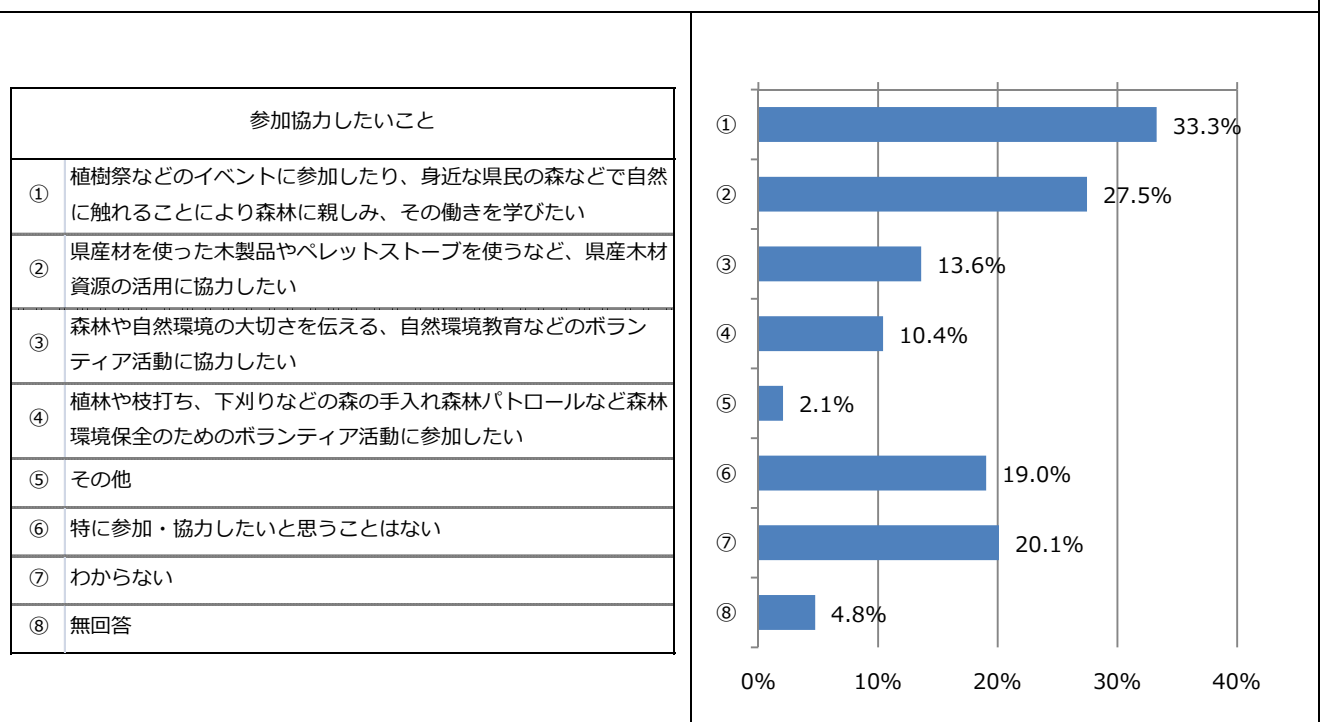
- 1 対象：県内在住の20歳以上の男女個人3000人
- 2 期間：平成27年5月29日～6月15日
- 3 回答：1,773名

・郵送によるアンケート調査を実施

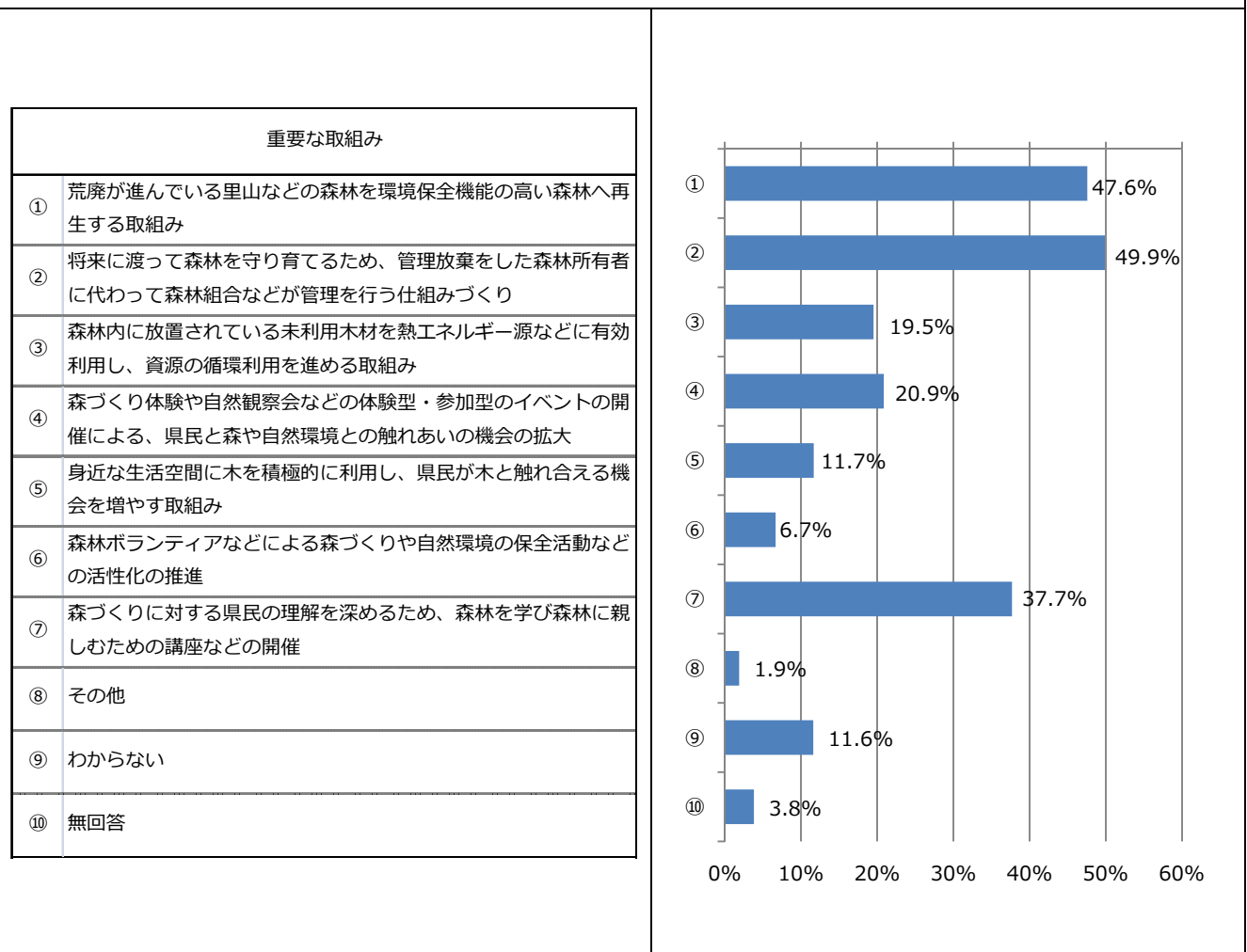
問1 やまがた緑環境税制度が平成19年4月からスタートしましたが、あなたは「やまがた緑環境税」や税の趣旨について知っていましたか。(1つ選択)



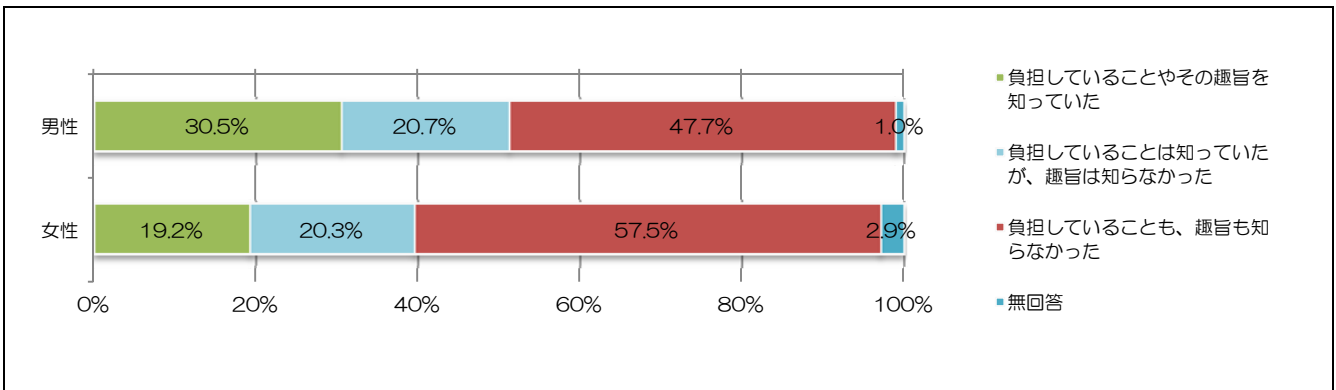
問2 県民みんなで支える森づくりのために、あなたは、どのようなことに参加・協力したいと思いますか。(3つまで選択)



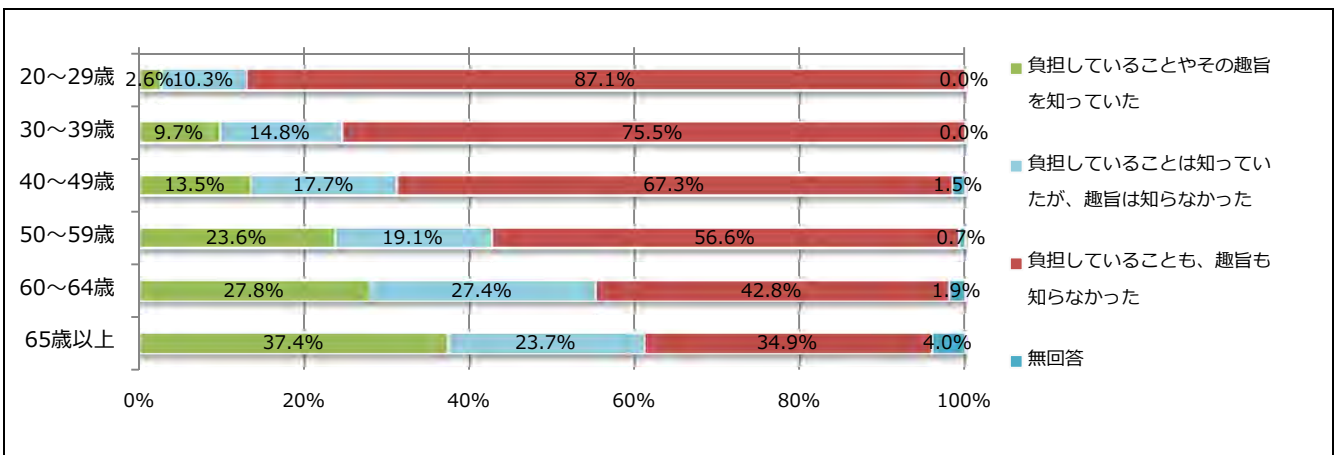
問3 やまがた緑環境税を活用して森づくりを進めるにあたって、あなたは、どのような取組みが重要だと思いますか。（3つまで選択）



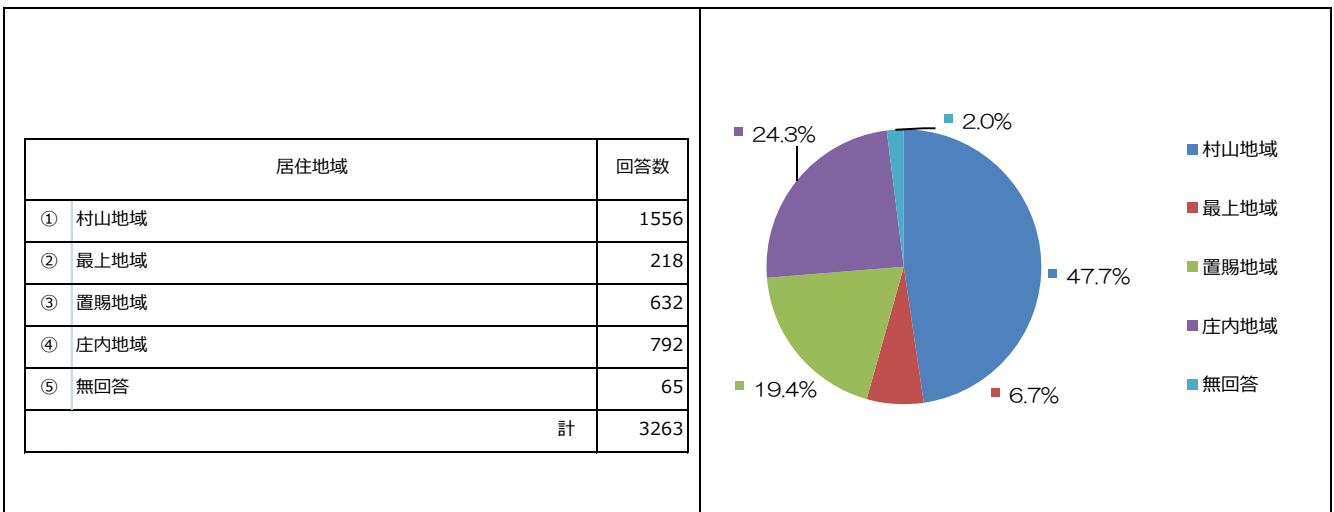
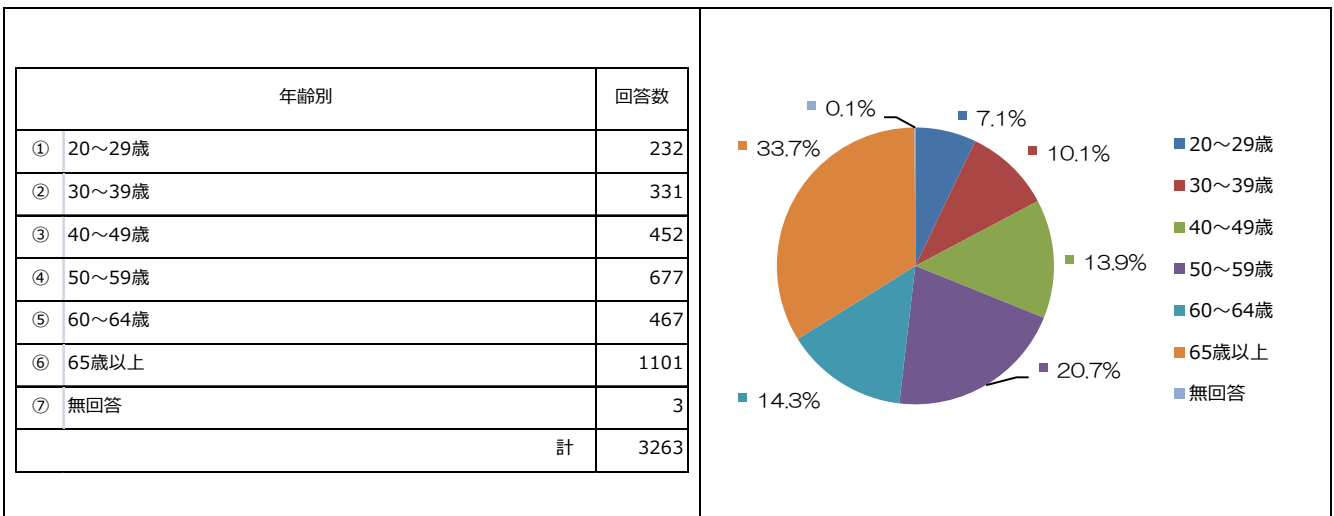
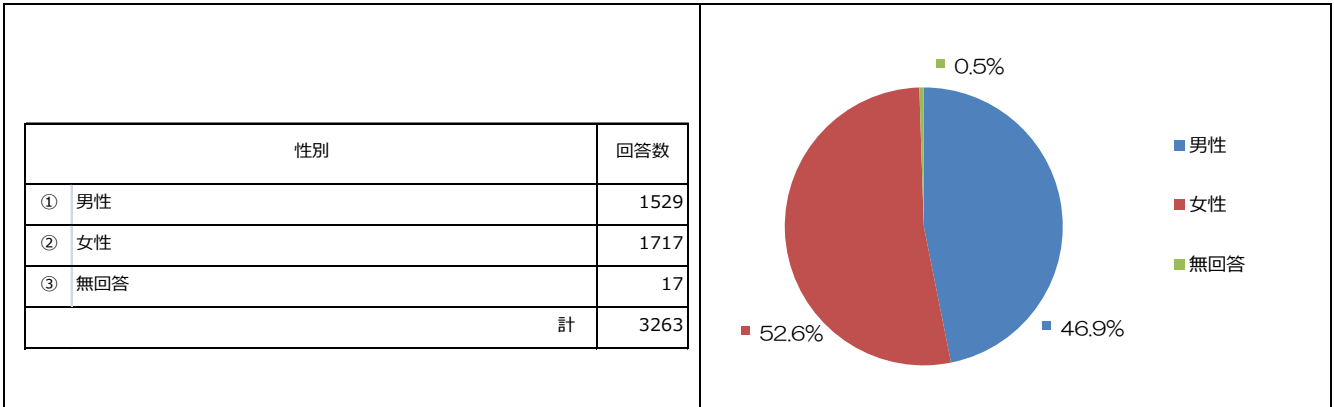
<性別毎の認知度>



<年齢別の認知度>



<調査対象の属性>



※ 地域別の抽出率が異なるため、回答数 1,773 件に集計ウェイトを加重して規正し、3,263 件に補正。

◆調査対象：個人

<調査の概要>

- 1 対 象：県内居住の満 20 歳以上の男女
- 2 期 間：平成 27 年 9 月～12 月
- 3 回 答：2,892 人

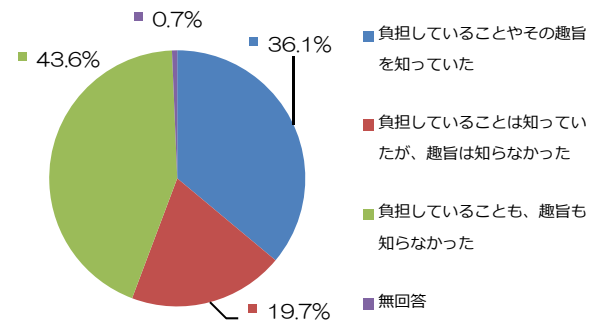
・ 各種イベント開催時や窓口等において、任意によるアンケート調査を実施。

<実施箇所>

- ・ 県林業まつり
- ・ やまがた環境展
- ・ 村山地域森の感謝祭
- ・ おきたま森の感謝祭
- ・ 庄内森とみどりのフェスティバル（酒田・鶴岡）
- ・ 源流の森
- ・ 各総合支庁窓口
- ・ イオンモール天童店、三川店、山形南店、米沢店
- ・ 市町村窓口（山形市、米沢市、鶴岡市、酒田市、寒河江市、村山市、長井市、天童市、南陽市、河北町、高島町、川西町、白鷹町、飯豊町、三川町、庄内町、遊佐町）
- ・ 絆の森企業（㈱ウンノハウス、㈱おーぱん、岡崎医療㈱、㈱シェルター、DCMホームマック㈱、㈱天童木工、日東ベスト㈱、(公社)山形県トラック協会）
- ・ インターネット

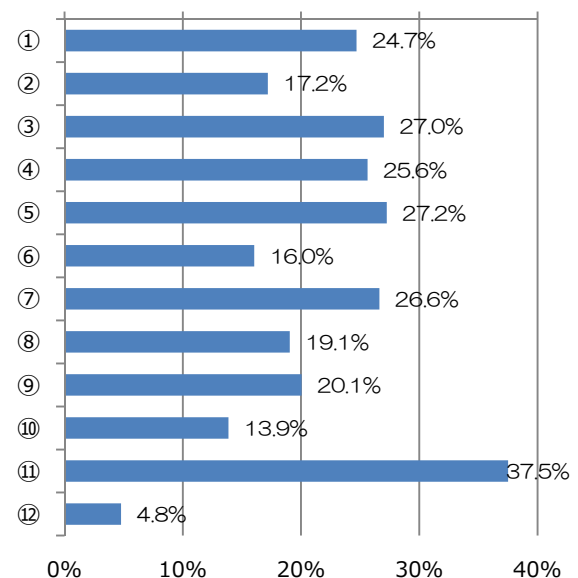
問 1 あなたは「やまがた緑環境税」や税の趣旨について知っていますか。（1つ選択）

認知度	回答数
① 負担していることやその趣旨を知っていた	1,043
② 負担していることは知っていたが、趣旨は知らなかった	569
③ 負担していることも、趣旨も知らなかった	1,261
④ 無回答	19
計	2,892



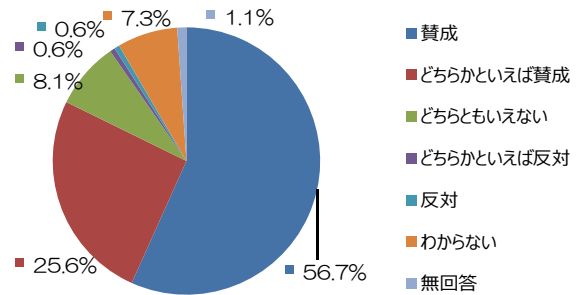
問 2 やまがた緑環境税は次の事業に活用されていますが、知っていますか。（知っているもの全て選択）

事業の認知度	回答数
① スギ人工林に広葉樹を導入し、水資源の保全など公益機能の高い森林を育成	714
② 再造林や間伐などの施業を一元管理し、森林の公益的機能を持続的に発揮する仕組みを構築	497
③ 被害木の伐採などにより、病虫害等で荒れた里山林を再生	781
④ 未利用木材を、木質バイオマス燃料などとして有効利用する取組み	741
⑤ 森づくり体験や自然観察会などの体験型イベントの開催による、森や自然環境との触れ合いの機会の拡大	788
⑥ 身近な生活空間に木を積極的に利用し、県民が木と触れ合える機会を増やす取組み	464
⑦ 森林ボランティアなどによる、森づくりや自然環境の保全活動などの活性化の推進	770
⑧ 企業が、県や森林所有者と協働で森づくり活動を行う「やまがた絆の森プロジェクト」の推進	551
⑨ 森づくりに対する県民の理解を深めるため、小学生等を対象とした森林を学び森林に親しむための講座などの開催	580
⑩ クマなどの野生動物や希少な動植物、山の実のりなど、森林内の生き物に関する調査	401
⑪ わからない	1,085
⑫ 無回答	138



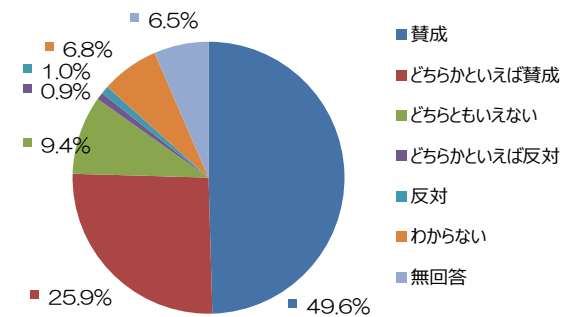
問3 あなたは、これまでやまがた緑環境税を活用して進めてきた取組みについてどう思いますか。
(1つ選択)

使いみち	回答数
① 賛成	1,640
② どちらかといえば賛成	739
③ どちらともいえない	234
④ どちらかといえば反対	18
⑤ 反対	18
⑥ わからない	211
⑦ 無回答	32
計	2,892



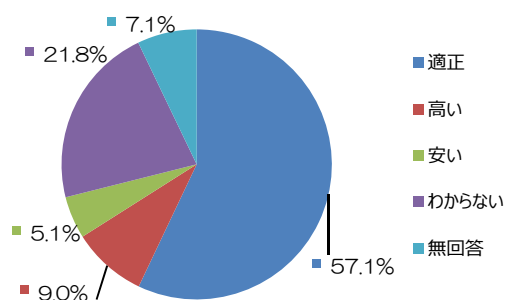
問4 今後も引き続きやまがた緑環境税を継続することについて、あなたはどのように考えますか。
(1つ選択)

継続	回答数
① 賛成	1,433
② どちらかといえば賛成	749
③ どちらともいえない	271
④ どちらかといえば反対	25
⑤ 反対	28
⑥ わからない	198
⑦ 無回答	188
計	2,892



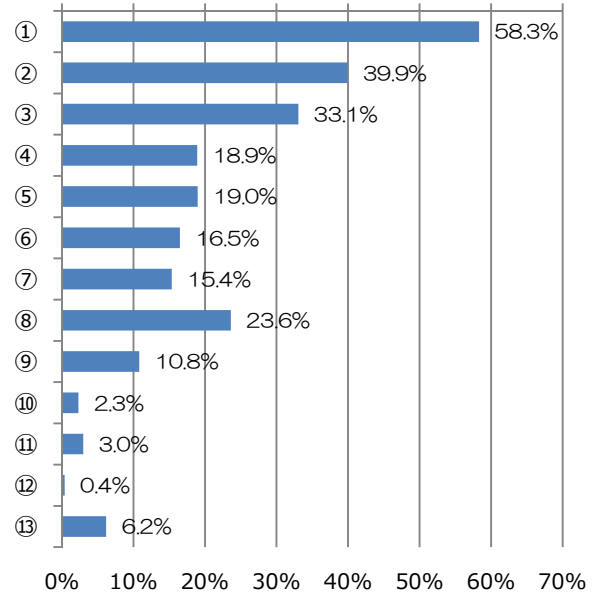
問5 やまがた緑環境税の税額について、あなたはどのように考えますか。(1つ選択)

税額	回答数
① 適正	1,650
② 高い	259
③ 安い	147
④ わからない	630
⑤ 無回答	206
計	2,892



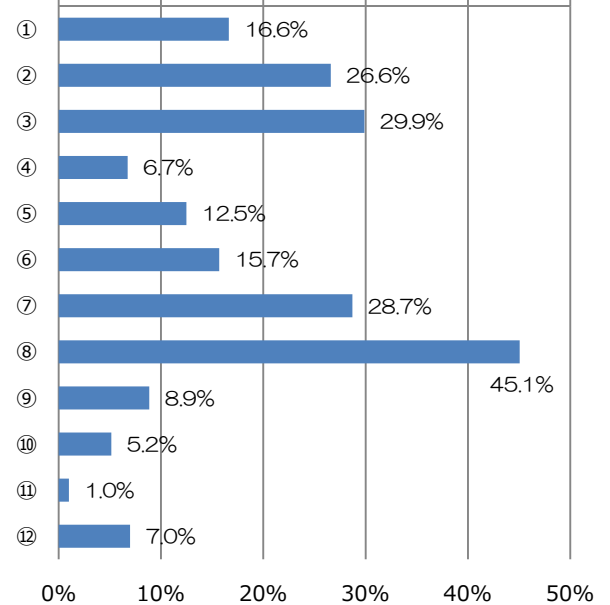
問6 あなたは、今後、森林のどのような働きに期待しますか（3つまで選択）

森林の働き		回答数
①	山崩れや洪水などの災害を防止する働き	1,687
②	地球温暖化防止に貢献する働き	1,155
③	水資源を蓄える働き	956
④	空気をきれいにしたり、騒音をやわらげる働き	547
⑤	心身の癒しや安らぎの場を提供する働き	549
⑥	住宅用建材や家具、紙、バイオマスエネルギーなどの原材料となる木材を生産する働き	477
⑦	貴重な野生動植物の生息の場としての働き	444
⑧	自然に親しみ、森林と人とのかかわりを学ぶなど教育の場としての働き	683
⑨	きのこや山菜などの林産物を生産する働き	313
⑩	特になし	67
⑪	わからない	86
⑫	その他	11
⑬	無回答	179

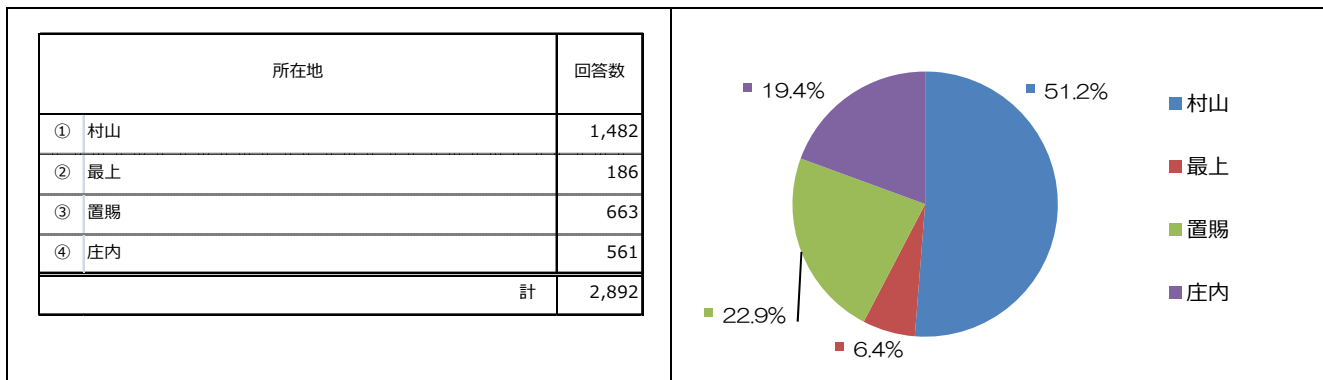
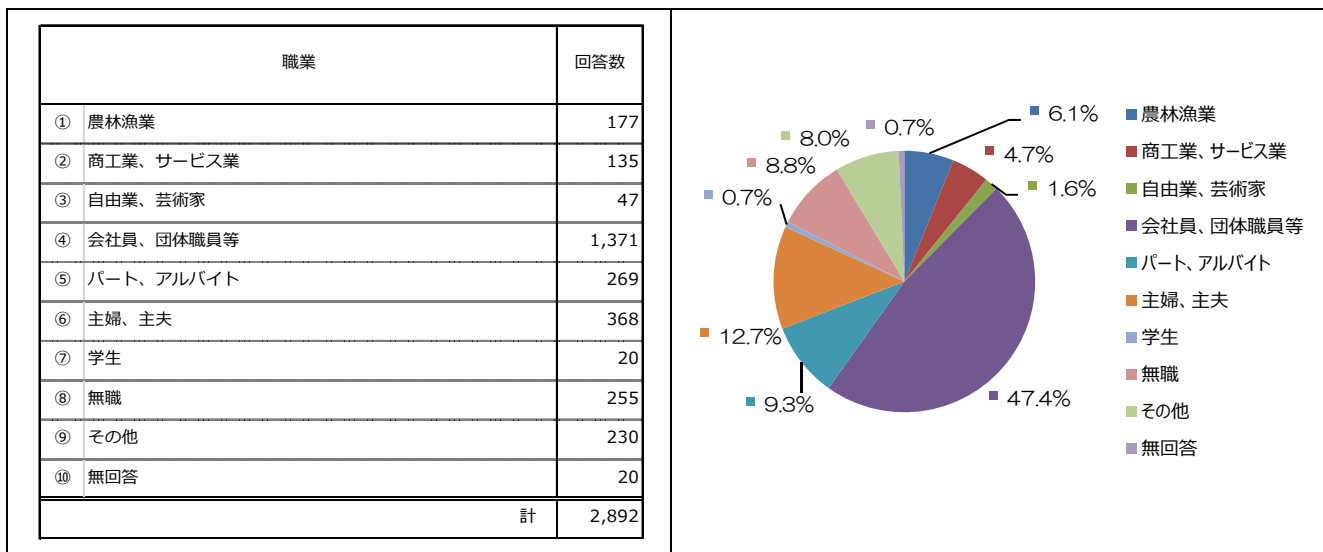
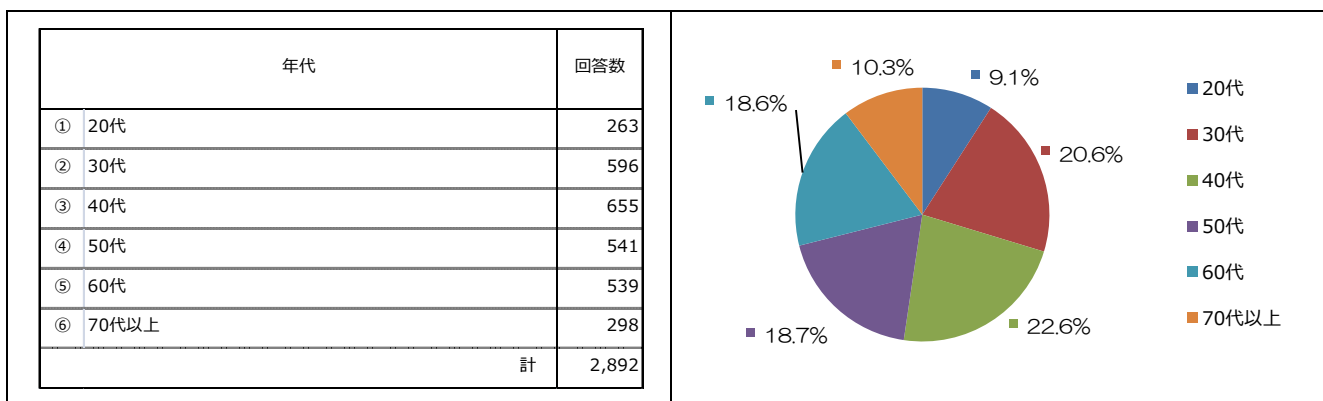
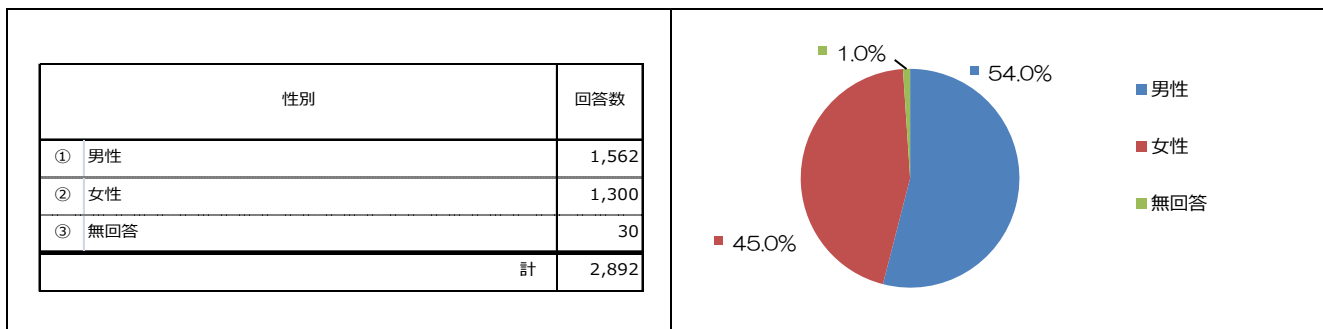


問7 あなたは、森林に関わることでどのようなことをしてみたいと思いますか。（3つまで選択）

森林との関わり		回答数
①	植林や下刈りなどの育林作業に参加したい	481
②	県民の森など身近で安心な場所で森林に親しみ、森の案内人の方々から様々な知識を学びたい	769
③	山形県産の木製品や薪を使うなど、県産木材資源の活用に協力したい	864
④	森林環境学習などについて学び、指導者として活動に協力したい	195
⑤	森林内に生息する動植物の保全活動や、生き物調査に参加したい	361
⑥	気の合う仲間とサークルを作り、自然の中で行う様々な活動に協力したい	454
⑦	山菜やきのこを育てることで、山の恵み・大切さを実感したい	830
⑧	森林浴により心身の気分転換を図りたい	1,303
⑨	特になし	256
⑩	わからない	149
⑪	その他	29
⑫	無回答	202



<調査対象の属性>



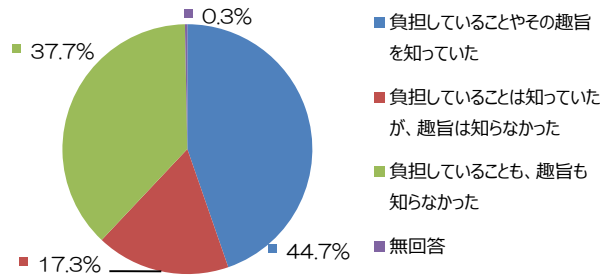
◆調査対象：法人

<調査の概要>

- 1 対象：山形県法人会連合会 会員
- 2 期間：平成27年8月～11月
- 3 回答：640社

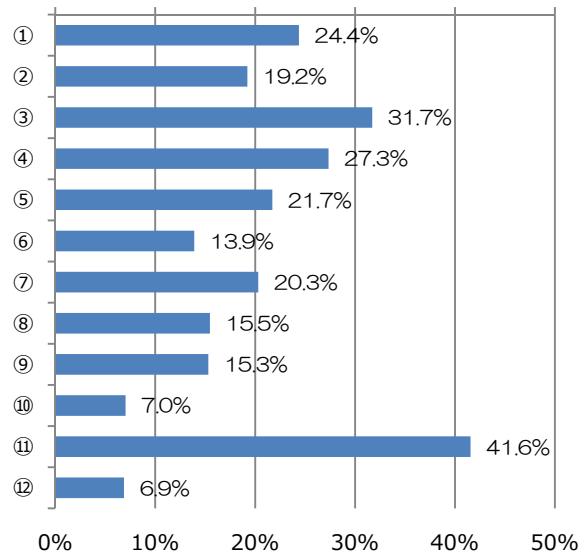
問1 貴社は「やまがた緑環境税」や税の趣旨について知っていますか。(1つ選択)

認知度	回答数
① 負担していることやその趣旨を知っていた	286
② 負担していることは知っていたが、趣旨は知らなかった	111
③ 負担していることも、趣旨も知らなかった	241
④ 無回答	2
計	640



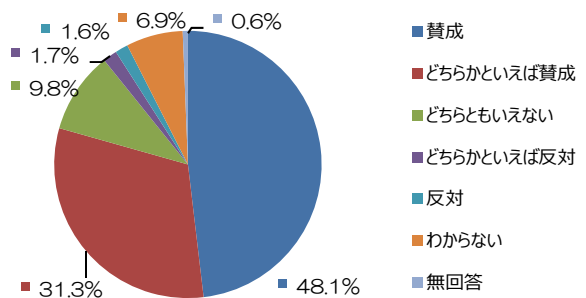
問2 やまがた緑環境税は次の事業に活用されていますが、知っていますか。(知っているもの全て選択)

事業の認知度	回答数
① スギ人工林に広葉樹を導入し、水資源の保全など公益機能の高い森林を育成	156
② 再造林や間伐などの施策を一元管理し、森林の公益的機能を持続的に発揮する仕組みを構築	123
③ 被害木の伐採などにより、病虫害等で荒れた里山林を再生	203
④ 未利用木材を、木質バイオマス燃料などとして有効利用する取組み	175
⑤ 森づくり体験や自然観察会などの体験型イベントの開催による、森や自然環境との触れ合いの機会の拡大	139
⑥ 身近な生活空間に木を積極的に利用し、県民が木と触れ合える機会を増やす取組み	89
⑦ 森林ボランティアなどによる、森づくりや自然環境の保全活動などの活性化の推進	130
⑧ 企業が、県や森林所有者と協働で森づくり活動を行う「やまがた絆の森プロジェクト」の推進	99
⑨ 森づくりに対する県民の理解を深めるため、小学生等を対象とした森林を学び森林に親しむための講座などの開催	98
⑩ クマなどの野生動物や希少な動植物、山の美のりなど、森林内の生き物に関する調査	45
⑪ わからない	266
⑫ 無回答	44



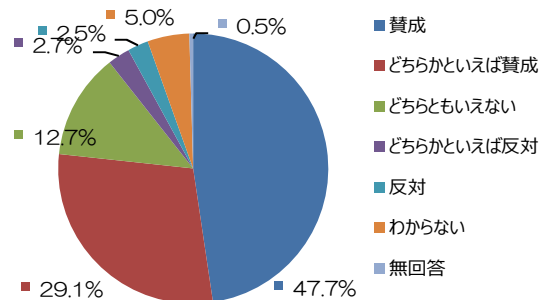
問3 貴社は、これまでやまがた緑環境税を活用して進めてきた取組みについてどう思いますか。(1つ選択)

使いみち	回答数
① 賛成	308
② どちらかといえば賛成	200
③ どちらともいえない	63
④ どちらかといえば反対	11
⑤ 反対	10
⑥ わからない	44
⑦ 無回答	4
計	640



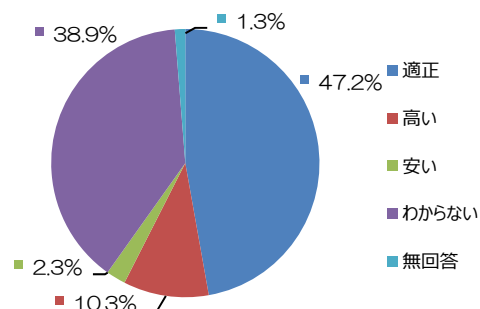
問4 今後も引き続きやまがた緑環境税を継続することについて、貴社はどのように考えますか。(1つ選択)

継続	回答数
① 賛成	305
② どちらかといえば賛成	186
③ どちらともいえない	81
④ どちらかといえば反対	17
⑤ 反対	16
⑥ わからない	32
⑦ 無回答	3
計	640



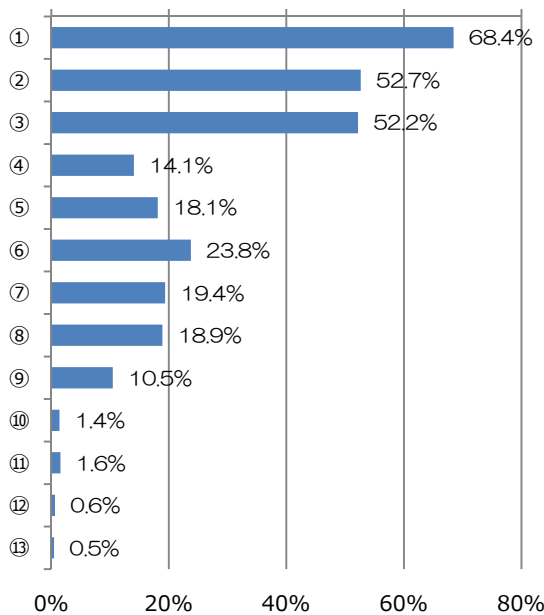
問5 やまがた緑環境税の税額について、貴社はどのように考えますか。(1つ選択)

税額	回答数
① 適正	302
② 高い	66
③ 安い	15
④ わからない	249
⑤ 無回答	8
計	640



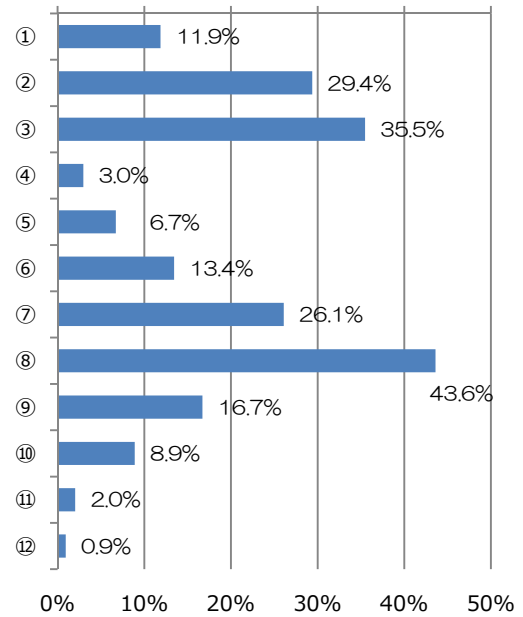
問6 貴社は、今後、森林のどのような働きに期待しますか。(3つまで選択)

森林の働き	回答数
① 山崩れや洪水などの災害を防止する働き	438
② 地球温暖化防止に貢献する働き	337
③ 水資源を蓄える働き	334
④ 空気をきれいにしたり、騒音をやわらげる働き	90
⑤ 心身の癒しや安らぎの場を提供する働き	116
⑥ 住宅用建材や家具、紙、バイオマスエネルギーなどの原材料となる木材を生産する働き	152
⑦ 貴重な野生動物植物の生息の場としての働き	124
⑧ 自然に親しみ、森林と人とのかかわりを学ぶなど教育の場としての働き	121
⑨ きのごや山菜などの林産物を生産する働き	67
⑩ 特になし	9
⑪ わからない	10
⑫ その他	4
⑬ 無回答	3



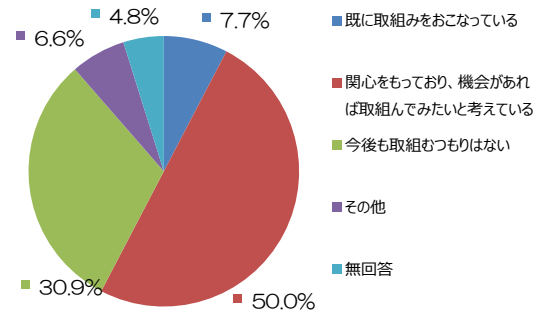
問7 あなたは、森林に関わることでどのようなことをしてみたいと思いますか。(3つまで選択)

森林との関わり		回答数
①	植林や下刈りなどの育林作業に参加したい	76
②	県民の森など身近で安心な場所で森林に親しみ、森の案内人の方々から様々な知識を学びたい	188
③	山形県産の木製品や薪を使うなど、県産木材資源の活用に関心したい	227
④	森林環境学習などについて学び、指導者として活動に関心したい	19
⑤	森林内に生息する動植物の保全活動や、生き物調査に参加したい	43
⑥	気の合う仲間とサークルを作り、自然の中で行う様々な活動に関心したい	86
⑦	山菜やきのこを育てることで、山の恵み・大切さを実感したい	167
⑧	森林浴により心身の気分転換を図りたい	279
⑨	特になし	107
⑩	わからない	57
⑪	その他	13
⑫	無回答	6



問8 貴社は、森林を活用した社会貢献活動（CSR）を行ってみたいと思いますか。(1つ選択)

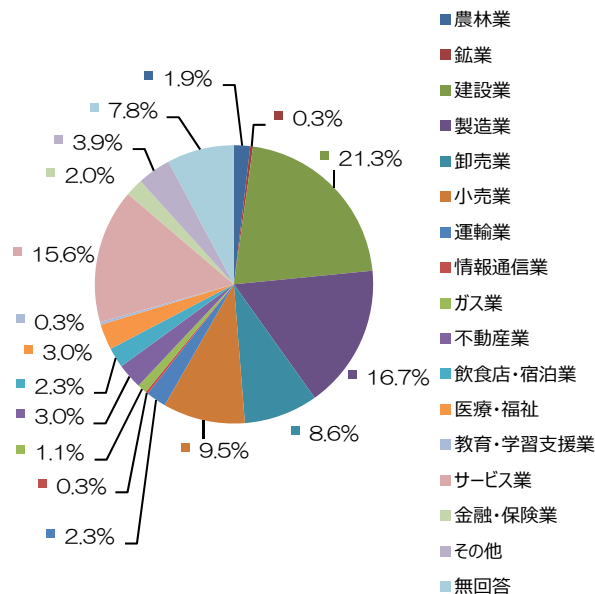
税額		回答数
①	既に取組みをおこなっている	49
②	関心をもっており、機会があれば取組んでみたいと考えている	320
③	今後も取組むつもりはない	198
④	その他	42
⑤	無回答	31
計		640



<回答した法人の内訳>

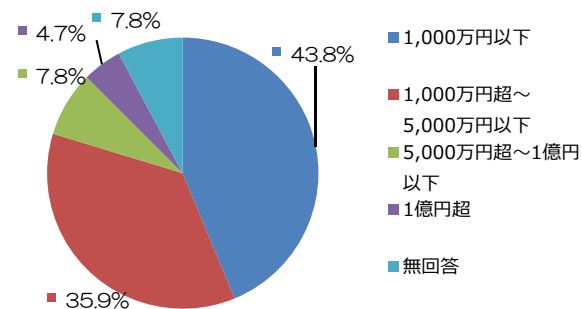
業種

回答法人の業種	回答数
① 農林業	12
② 鉱業	2
③ 建設業	136
④ 製造業	107
⑤ 卸売業	55
⑥ 小売業	61
⑦ 運輸業	15
⑧ 情報通信業	2
⑨ ガス業	7
⑩ 不動産業	19
⑪ 飲食店・宿泊業	15
⑫ 医療・福祉	19
⑬ 教育・学習支援業	2
⑭ サービス業	100
⑮ 金融・保険業	13
⑯ その他	25
⑰ 無回答	50
計	640



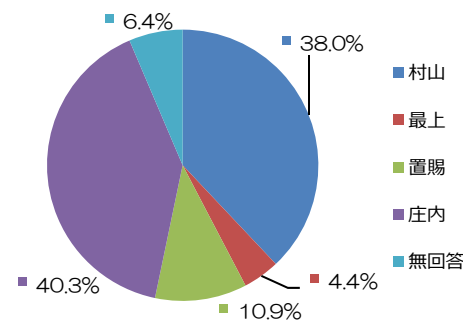
資本金

回答法人の資本金	回答数
① 1,000万円以下	280
② 1,000万円超～5,000万円以下	230
③ 5,000万円超～1億円以下	50
④ 1億円超	30
⑤ 無回答	50
計	640



所在地

回答法人の所在地	回答数
① 村山	243
② 最上	28
③ 置賜	70
④ 庄内	258
⑤ 無回答	41
計	640



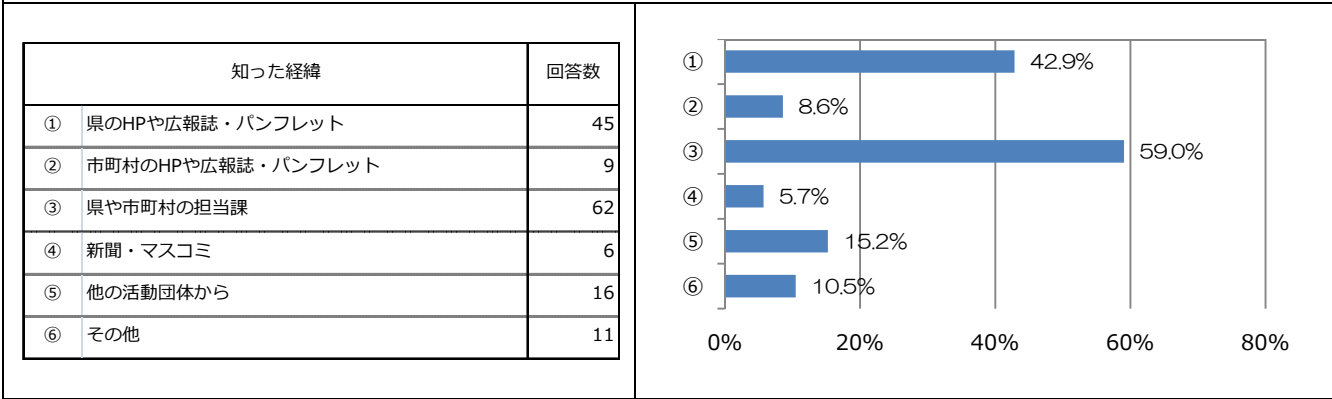
◆調査対象：公募団体

<調査の概要>

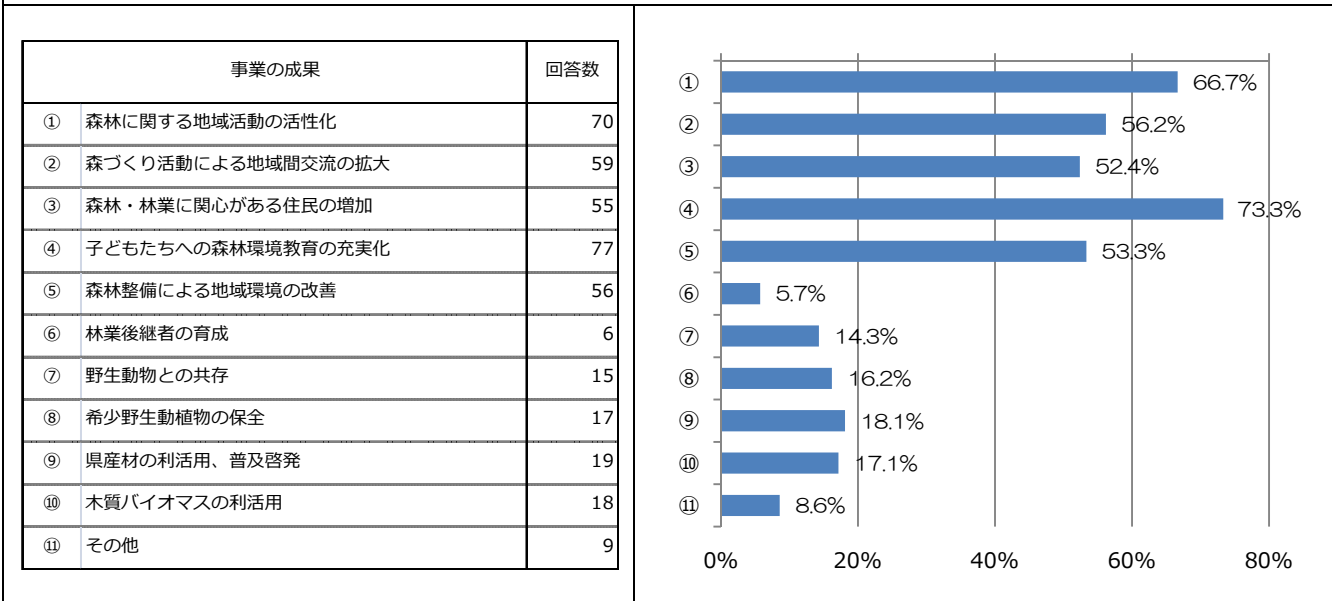
- 1 対象：平成27年度県民みんなで支える森・みどり環境公募事業実施団体 114団体
- 2 期間：平成27年10月～11月
- 3 回答：105団体

・ 郵送又はメールにてアンケート調査を実施

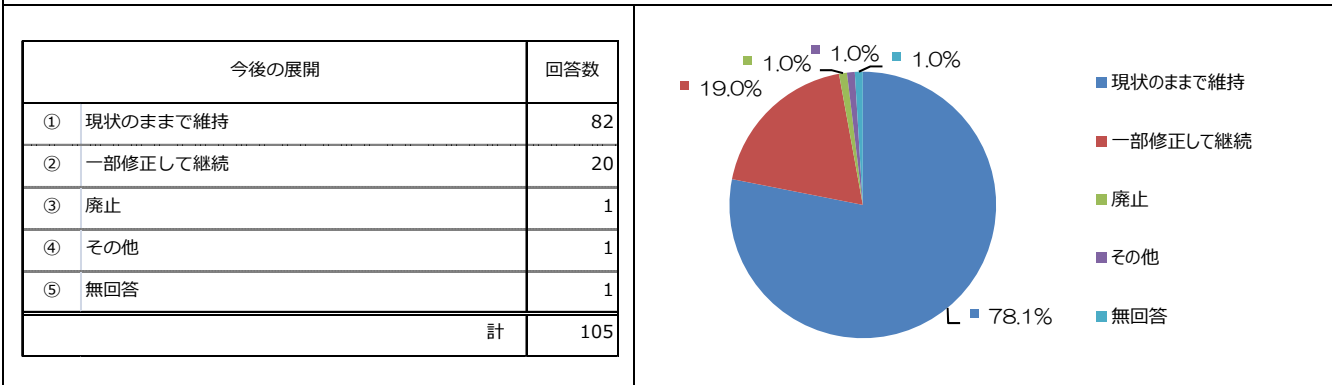
問1 貴団体は公募事業を何により知りましたか。(該当するもの全て選択)



問2 公募事業の実施により、どのような成果があったとお考えですか。(該当するもの全て選択)

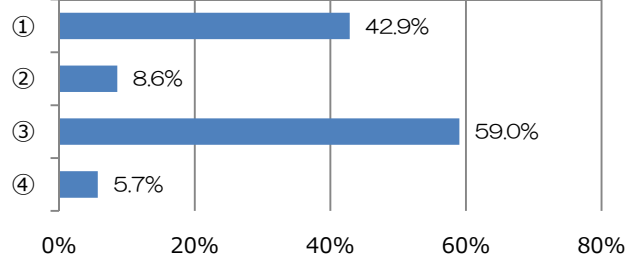


問3 公募事業の今後(平成29年度以降)の展開について、どのようにお考えですか。(1つ選択)



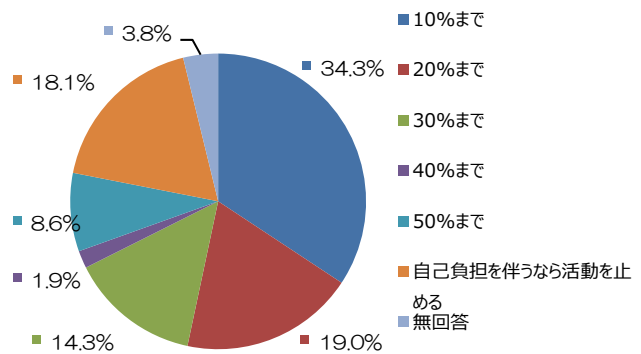
問5 貴団体の活動経費に関する公募事業以外の財源についてお尋ねします。(該当するもの全て選択)

公募事業以外の財源		回答数
①	会員から定期的に会費を徴収している	45
②	活動毎に参加者から参加費を徴収している	9
③	その他の財源	62
④	公募事業以外に財源は無い	6



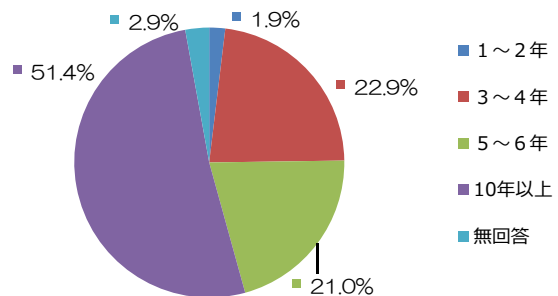
問6 どれくらいまでの自己負担が可能と思われますか。(1つ選択)

自己負担可能な割合		回答数
①	10%まで	36
②	20%まで	20
③	30%まで	15
④	40%まで	2
⑤	50%まで	9
⑥	自己負担を伴うなら活動を止める	19
⑦	無回答	4
計		105



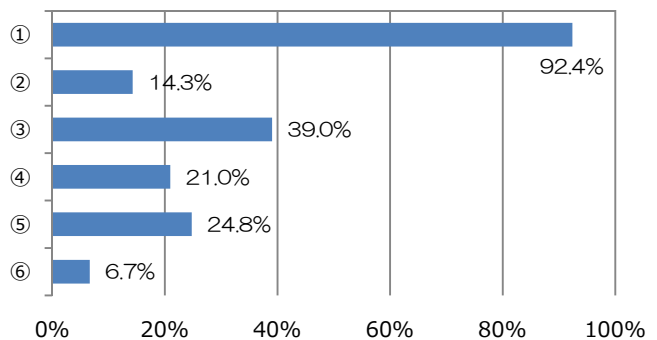
問7 公募事業への連続申請期間は何年位が適当と考えますか。(1つ選択)

連続申請期間		回答数
①	1～2年	2
②	3～4年	24
③	5～6年	22
④	10年以上	54
⑤	無回答	3
計		105



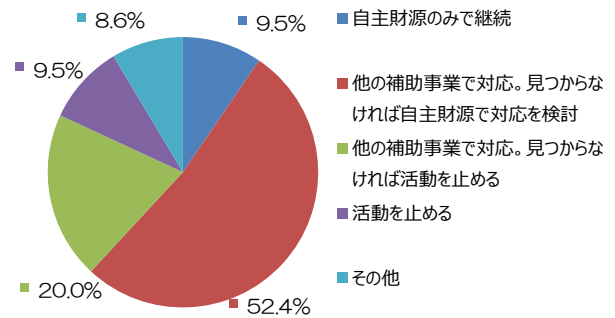
問8 貴団体が、継続的かつ実践的な森づくり活動を進めていく上で、どのような支援が必要ですか。(3つまで選択)

必要な支援		回答数
①	活動に必要な経費	97
②	森づくりフィールド等情報の提供	15
③	活動時の技術的支援	41
④	クワなどの資材の貸出	22
⑤	団体指導者クラスの研修・育成	26
⑥	その他	7



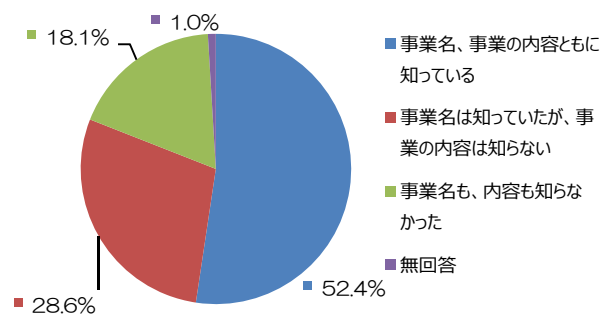
問9 公募事業が廃止となった場合、現在の活動についてどう対応しますか。(1つ選択)

廃止後の活動		回答数
①	自主財源のみで継続	10
②	他の補助事業で対応。見つからなければ自主財源で対応を検討	55
③	他の補助事業で対応。見つからなければ活動を止める	21
④	活動を止める	10
⑤	その他	9
計		105



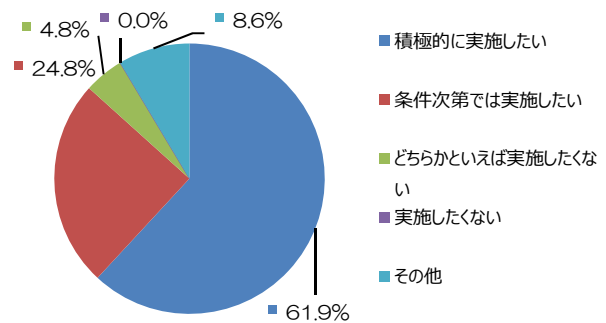
問10 「やまがた緑環境交付金事業」をご存じですか。(1つ選択)

交付金事業の認知度		回答数
①	事業名、事業の内容ともに知っている	55
②	事業名は知っていたが、事業の内容は知らない	30
③	事業名も、内容も知らなかった	19
④	無回答	1
計		105



問11 市町村と密接に連携しながら市町村内の森づくり活動を協働で実施していくことについて、どのようにお考えですか。(1つ選択)

市町村との連携		回答数
①	積極的に実施したい	65
②	条件次第では実施したい	26
③	どちらかといえば実施したくない	5
④	実施したくない	0
⑤	その他	9
計		105



※ 問4は記述式のため省略。

◆調査対象：市町村

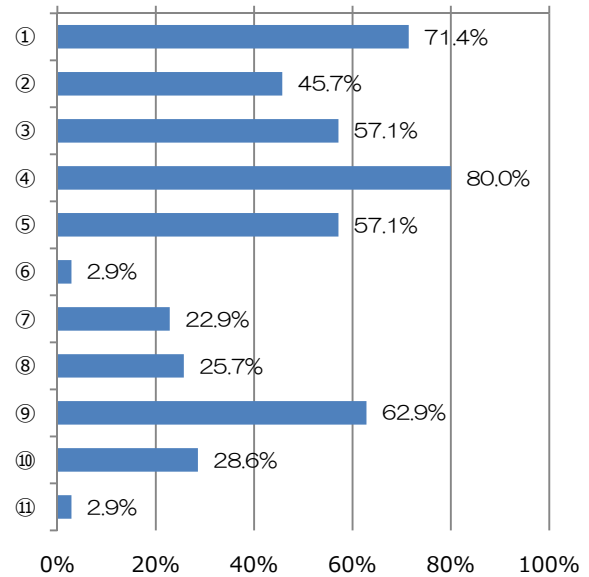
<調査の概要>

- 1 対象：みどり環境交付金事業実施市町村
- 2 期間：平成27年10月～11月
- 3 回答：35市町村

・ メールによるアンケート調査を実施

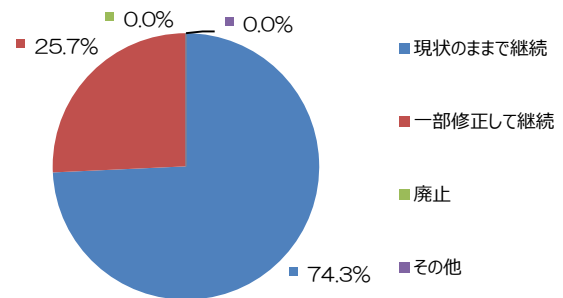
問1 交付金事業の実施により、どのような成果があったとお考えですか。(該当するもの全て選択)

事業の成果	回答数
① 森林に関する地域活動の活性化	25
② 森づくり活動による地域間交流の拡大	16
③ 森林・林業に関心がある住民の増加	20
④ 子どもたちへの森林環境教育の充実化	28
⑤ 森林整備による地域環境の改善	20
⑥ 林業後継者の育成	1
⑦ 野生動物との共存	8
⑧ 希少野生動植物の保全	9
⑨ 県産材の利活用、普及啓発	22
⑩ 木質バイオマスの利活用	10
⑪ その他	1



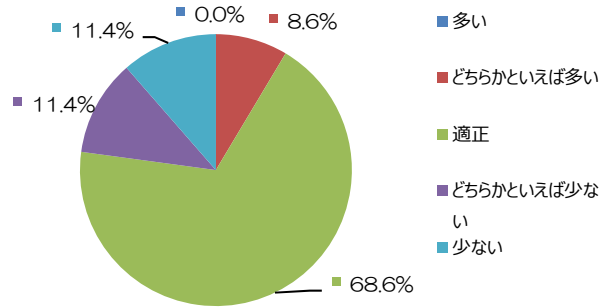
問2 交付金事業の今後の展開について、どのようにお考えですか。(1つ選択)

今後の展開	回答数
① 現状のままで継続	26
② 一部修正して継続	9
③ 廃止	0
④ その他	0
計	35



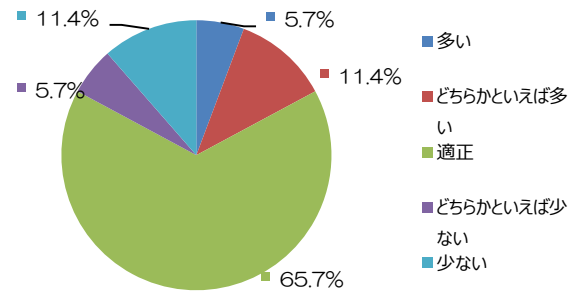
問4 交付金事業の現在の貴市町村の基本配分額についてどのようにお考えですか。(1つ選択)

基本配分額		回答数
①	多い	0
②	どちらかといえば多い	3
③	適正	24
④	どちらかといえば少ない	4
⑤	少ない	4
計		35



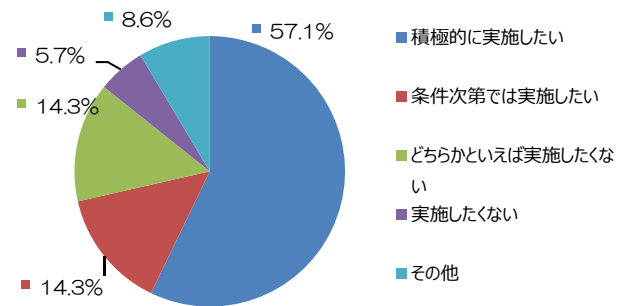
問5 特別配分枠の割合についてどのようにお考えですか。(1つ選択)

特別配分枠の割合		回答数
①	多い	2
②	どちらかといえば多い	4
③	適正	23
④	どちらかといえば少ない	2
⑤	少ない	4
計		35



問8 公募事業実施団体と協働で貴市町村の森づくり活動を実施することについて、どのようにお考えですか。(1つ選択)

公募事業実施団体との協働		回答数
①	積極的に実施したい	20
②	条件次第では実施したい	5
③	どちらかといえば実施したくない	5
④	実施したくない	2
⑤	その他	3
計		35



※ 問3、問6、問7は記述式のため省略。

◆調査対象：森林所有者

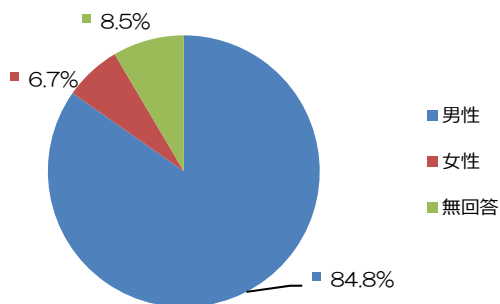
<調査の概要>

- 1 対象：やまがた緑環境税を活用して森林整備を実施した森林所有者
- 2 期間：平成27年8月
- 3 回答：741名

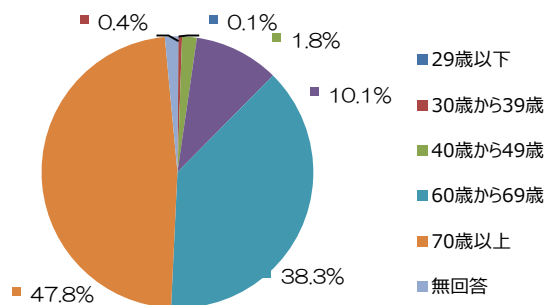
・ 郵送によるアンケート調査を実施

回答者属性

性別		回答数
①	男性	628
②	女性	50
③	無回答	63
計		741

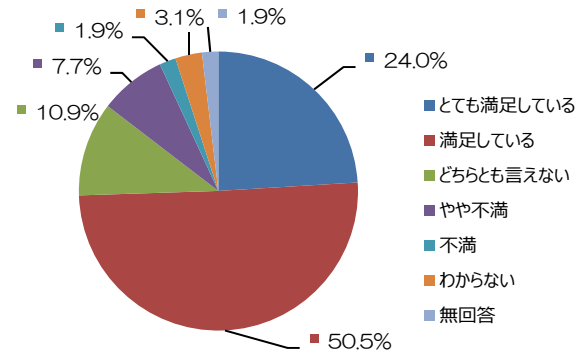


年齢		回答数
①	29歳以下	1
②	30歳から39歳	3
③	40歳から49歳	13
④	50歳から59歳	75
⑤	60歳から69歳	284
⑥	70歳以上	354
⑦	無回答	11
計		741



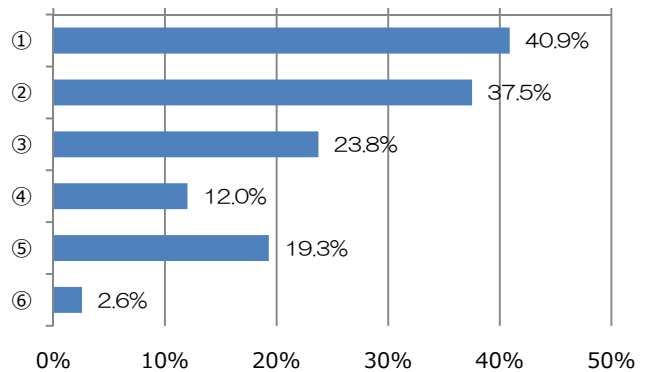
問1 県主導の山の手入れが行われたことについての感想をお聞かせください。(1つ選択)

事業を行っての感想	回答数
① とても満足している	178
② 満足している	374
③ どちらとも言えない	81
④ やや不満	57
⑤ 不満	14
⑥ わからない	23
⑦ 無回答	14
計	741



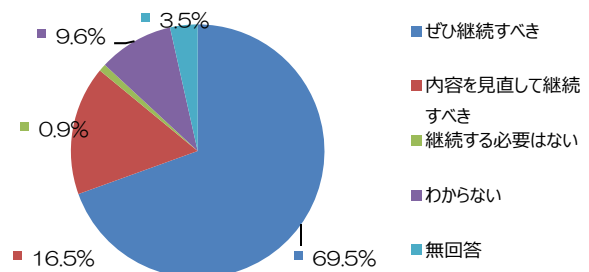
問2 県主導の山の手入れが行われたことにより、山に対する意識が変わりましたか。(2つまで選択)

山に対する意識の変化	回答数
① 必要性の認識が高まった	303
② 助成制度への興味が高まった	278
③ 森林の公益的機能への興味が高まった	176
④ 木材価格の動向への興味が高まった	89
⑤ 変化なし	143
⑥ その他	19



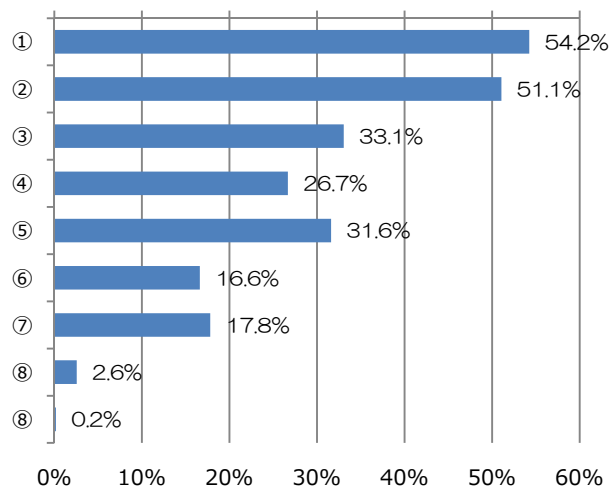
問3 今後も、やまがた緑環境税を活用した県主導での山の手入れを継続すべきと思いますか。(1つ選択)

県主導での森林整備の継続	回答数
① ぜひ継続すべき	515
② 内容を見直して継続すべき	122
③ 継続する必要はない	7
④ わからない	71
⑤ 無回答	26
計	741



問4 今後も、やまがた緑環境税の制度が継続されることになった場合、どのようなことを望みますか。
 (3つまで選択) ※森林整備を実施しなかった森林所有者を含む。

今後望むこと	回答数
① 県主導の手入れを拡充	594
② 伐った木の利用	559
③ 山の境界明確化	362
④ 植林その後の保育管理	292
⑤ 景観保全のため	346
⑥ 皆伐後、再植林に支援	182
⑦ 自力手入れの人に支援	195
⑧ その他	28
⑧ 無回答	2



やまがた緑環境税の見直しに向けたアンケート調査 (平成 27 年 月)

＜今回のアンケート調査の目的＞

調査機関：山形県

山形県では、荒廃した森林の整備や、県民参加の森づくりの推進など、県民みんなで支える森づくりを実施するため、平成 19 年度から「やまがた緑環境税」を導入しています。また、現在、地域の豊かな森林資源を「森のエネルギー」、「森の恵み」として活かしていく「やまがた森林（モリ）ノミクス」を推進しており、やまがた緑環境税はその一端を担う重要な財源の一つとなっています。

このアンケート調査は、平成 28 年度に実施予定の「やまがた緑環境税の見直し」に向けて、県民の皆様のやまがた緑環境税に対する御意見を集約するためのものです。

- 性別（該当に○印）
 1. 男
 2. 女
- 年代（該当に○印）
 1. 20代
 2. 30代
 3. 40代
 4. 50代
 5. 60代
 6. 70歳以上
- 職業（該当に○印）
 1. 農林漁業
 2. 商工業、サービス業
 3. 自由業、芸術家
 4. 会社員、団体職員等
 5. パート、アルバイト
 6. 主婦、主夫
 7. 学生
 8. 無職
 9. その他
- 地域（該当に○印）
 1. 村山
 2. 最上
 3. 置賜
 4. 庄内

問 1 やまがた緑環境税制度が平成 19 年 4 月からスタートしましたが、あなたは「やまがた緑環境税」や税の趣旨※について知っていますか。（1つだけ○印）

※ 森林には、私たちの暮らしを災害から守るとともに、水資源の保全、地球の温暖化を防止するなど様々な働き（森林の公益的機能）があります。これらの働きを守るため、荒れている森林の整備や県民みんなで支える森づくりを進める財源として、住民税の納税義務者から税を負担していただくものです（個人では年間 1,000 円、法人では資本金に応じて年間 2,000 円～80,000 円）。

1. 負担していることや、その趣旨を知っていた
2. 負担していることは知っていたが、趣旨は知らなかった
3. 負担していることも、趣旨も知らなかった

問 2 やまがた緑環境税は次の事業に活用されていますが、知っていますか。（知っているものすべてに○印）

1. スギ人工林に広葉樹を導入し、水資源の保全など公益的機能の高い森林を育成
2. 再造林や間伐などの施業を一元管理し、森林の公益的機能を持続的に発揮する仕組みを構築
3. 被害木の伐採などにより、病害虫等で荒れた里山林を再生
4. 未利用木材を、木質バイオマス燃料などとして有効利用する取り組み
5. 森づくり体験や自然観察会などの体験型イベントの開催による、森や自然環境との触れ合いの機会の拡大
6. 身近な生活空間に木を積極的に利用し、県民が木と触れ合える機会を増やす取り組み
7. 森林ボランティアなどによる、森づくりや自然環境の保全活動などの活性化の推進
8. 企業が、県や森林所有者と協働で森づくり活動を行う「やまがた絆の森プロジェクト」の推進
9. 森づくりに対する県民の理解を深めるため、小学生等を対象とした森林を学び森林に親しむための講座などの開催
10. クマなどの野生動物や希少な動植物、山の実りなど、森林内の生き物に関する調査
11. わからない

問 3 あなたは、これまでやまがた緑環境税を活用して進めてきた問 2 のような取り組みについてどう思いますか。（1つだけ○印）

1. 賛成
2. どちらかといえば賛成
3. どちらともいえない
4. どちらかといえば反対
5. 反対
6. わからない

問4 やまがた緑環境税では、問2のように様々な取組みを進めてきましたが、依然として多くの課題が残されています。たとえば、問2の1～3の事業により、10か年計画で荒廃している森林11,600haを順調に整備しておりますが、緊急に整備が必要な森林は未だ100,000haを超えていると推計されています。

今後も引き続きやまがた緑環境税を継続することについて、あなたはどのように考えますか。(1つだけ○印)

- | | | |
|---------------|---------------|--------------|
| 1. 賛成 | 2. どちらかといえば賛成 | 3. どちらともいえない |
| 4. どちらかといえば反対 | 5. 反対 | 6. わからない |

問5 あなたが負担しているやまがた緑環境税の税額(年間1,000円)について、あなたはどのように考えますか。(1つだけ○印)

1. 適正 2. 高い 3. 低い 4. わからない

問6 あなたは、今後、森林のどのような働きに期待しますか。(3つまで○印)

1. 山崩れや洪水などの災害を防止する働き
2. 地球温暖化防止に貢献する働き
3. 水資源を蓄える働き
4. 空気をきれいにしたり、騒音をやわらげる働き
5. 心身の癒しや安らぎの場を提供する働き
6. 住宅用建材や家具、紙、バイオマスエネルギーなどの原材料となる木材を生産する働き
7. 貴重な野生動植物の生息の場としての働き
8. 自然に親しみ、森林と人とのかかわりを学ぶなど教育の場としての働き
9. きのこと山菜などの林産物を生産する働き
10. 特にない
11. わからない
12. その他()

問7 あなたは、森林に関わることでどのようなことをしてみたいと思いますか。(3つまで○印)

1. 植林や下刈りなどの育林作業に参加したい
2. 県民の森など身近で安心な場所で森林に親しみ、森の案内人の方々から様々な知識を学びたい
3. 山形県産の木製品や薪を使うなど、県産木材資源の活用に関心したい
4. 森林環境学習などについて学び、指導者として活動に関心したい
5. 森林内に生息する動植物の保全活動や、生き物調査に関心したい
6. 気の合う仲間とサークルを作り、自然の中で行う様々な活動に関心したい
7. 山菜やきのこを育てることで、山の恵み・大切さを実感したい
8. 森林浴により心身の気分転換を図りたい
9. 特にない
10. わからない
11. その他()

問8 やまがた緑環境税を活用して今後行うべき取組みについて、ぜひ具体的な御意見をお聞かせください(記述式) ※内容は、必ずしも問6とリンクしなくても結構です。

例)・近年の〇〇な状況から考えると、〇〇〇にもっと力を入れるべき。
・〇〇〇は、緑環境税で実施可能か? 現在該当する事業がなければ、ぜひ検討してほしい。

設問は以上です。御協力ありがとうございました。

やまがた緑環境税の見直しに向けたアンケート調査（平成 27 年 月）

《企業》

＜今回のアンケート調査の目的＞

調査機関：山形県

山形県では、荒廃した森林の整備や、県民参加の森づくりの推進など、県民みんなで支える森づくりを実施するため、平成 19 年度から「やまがた緑環境税」を導入しています。また、現在、地域の豊かな森林資源を「森のエネルギー」、「森の恵み」として活かしていく「やまがた森林（モリ）ノミクス」を推進しており、やまがた緑環境税はその一端を担う重要な財源の一つとなっています。

このアンケート調査は、平成 28 年度に実施予定の「やまがた緑環境税の見直し」に向けて、県民の皆様のやまがた緑環境税に対する御意見を集約するためのものです。

【 以下設問の回答は、別紙回答用紙に御記入ください。 】

問 1 やまがた緑環境税制度が平成 19 年 4 月からスタートしましたが、貴社は「やまがた緑環境税」や税の趣旨※について知っていますか。（1 つだけ選択）

※ 森林には、私たちの暮らしを災害から守るとともに、水資源の保全、地球の温暖化を防止するなど様々な働き（森林の公益的機能）があります。これらの働きを守るため、荒れている森林の整備や県民みんなで支える森づくりを進める財源として、住民税の納税義務者から税を負担していただくものです（個人では年間 1,000 円、法人では資本金に応じて年間 2,000 円～80,000 円）。

1. 負担していることや、その趣旨を知っていた
2. 負担していることは知っていたが、趣旨は知らなかった
3. 負担していることも、趣旨も知らなかった

問 2 やまがた緑環境税は次の事業に活用されていますが、知っていますか。（知っているものすべてを選択）

1. スギ人工林に広葉樹を導入し、水資源の保全など公益的機能の高い森林を育成
2. 再造林や間伐などの施業を一元管理し、森林の公益的機能を持続的に発揮する仕組みを構築
3. 被害木の伐採などにより、病害虫等で荒れた里山林を再生
4. 未利用木材を、木質バイオマス燃料などとして有効利用する取組み
5. 森づくり体験や自然観察会などの体験型イベントの開催による、森や自然環境との触れ合いの機会の拡大
6. 身近な生活空間に木を積極的に利用し、県民が木と触れ合える機会を増やす取組み
7. 森林ボランティアなどによる、森づくりや自然環境の保全活動などの活性化の推進
8. 企業が、県や森林所有者と協働で森づくり活動を行う「やまがた絆の森プロジェクト」の推進
9. 森づくりに対する県民の理解を深めるため、小学生等を対象とした森林を学び森林に親しむための講座などの開催
10. クマなどの野生動物や希少な動植物、山の実りなど、森林内の生き物に関する調査
11. わからない

問 3 貴社は、これまでやまがた緑環境税を活用して進めてきた問 2 のような取組みについてどう思いますか。（1 つだけ選択）

1. 賛成
2. どちらかといえば賛成
3. どちらともいえない
4. どちらかといえば反対
5. 反対
6. わからない

問 4 やまがた緑環境税では、問 2 のように様々な取組みを進めてきましたが、依然として多くの課題が残されています。たとえば、問 2 の 1～3 の事業により、10 年計画で荒廃している森林 11,600ha を順調に整備しておりますが、緊急に整備が必要な森林は未だ 100,000ha を超えていると推計されています。

今後も引き続きやまがた緑環境税を継続することについて、貴社はどのように考えますか。（1 つだけ選択）

1. 賛成
2. どちらかといえば賛成
3. どちらともいえない
4. どちらかといえば反対
5. 反対
6. わからない

問5 貴社が負担しているやまがた緑環境税の税額（資本金に応じて年間2,000円～80,000円）について、貴社はどのように考えますか。（1つだけ選択）

1. 適正
2. 高い
3. 低い
4. わからない

問6 貴社は、今後、森林のどのような働きに期待しますか。（3つまで選択）

1. 山崩れや洪水などの災害を防止する働き
2. 地球温暖化防止に貢献する働き
3. 水資源を蓄える働き
4. 空気をきれいにしたり、騒音をやわらげる働き
5. 心身の癒しや安らぎの場を提供する働き
6. 住宅用建材や家具、紙、バイオマスエネルギーなどの原材料となる木材を生産する働き
7. 貴重な野生動植物の生息の場としての働き
8. 自然に親しみ、森林と人とのかかわりを学ぶなど教育の場としての働き
9. きのこと山菜などの林産物を生産する働き
10. 特にない
11. わからない
12. その他 ※回答用紙に、具体的に御記入ください。

問7 貴社は、森林に関わることでどのようなことをしてみたいと思いますか。（3つまで選択）

1. 植林や下刈りなどの育林作業に参加したい
2. 県民の森など身近で安心な場所で森林に親しみ、森の案内人の方々から様々な知識を学びたい
3. 山形県産の木製品や薪を使うなど、県産木材資源の活用に協力したい
4. 森林環境学習などについて学び、指導者として活動に協力したい
5. 森林内に生息する動植物の保全活動や、生き物調査に参加したい
6. 気の合う仲間とサークルを作り、自然の中で行う様々な活動に協力したい
7. 山菜やきのこを育てることで、山の恵み・大切さを実感したい
8. 森林浴により心身の気分転換を図りたい
9. 特にない
10. わからない
11. その他 ※回答用紙に、具体的に御記入ください。

問8 貴社は、問7のような森林を活用した社会貢献活動（CSR）を行ってみようと思いますか。（1つだけ選択）

※企業は、社会や環境に与える影響が大きいことを認識し、「企業の社会的貢献（CSR）」を率先して果たす必要がある。
（「企業行動憲章」（社）日本経済団体連合会。2010）より引用）

1. 既に取り組みをおこなっている。
2. 関心を持っており、機会があれば取り組んでみたいと考えている。
3. 今後も取り組むつもりはない。
4. その他 ※回答用紙に、具体的に御記入ください。

問9 やまがた緑環境税を活用して今後行うべき取組みについて、ぜひ具体的な御意見をお聞かせください。（記述式）※内容は、必ずしも問6とリンクしなくても結構です。

例）・近年の〇〇な状況から考えると、〇〇〇にもっと力を入れるべき。

・〇〇〇は、緑環境税で実施可能か？ 現在該当する事業がなければ、ぜひ検討してほしい。

設問は以上です。ご協力ありがとうございました。